

平成 25 年 度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

平成 2 6 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	11
3、	教育委員会議の評価	12
III	平成 25 年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	13
○	富良野市教育委員会行政組織図	15
○	学校教育課所管事務事業	16
○	社会教育課所管事務事業	39
○	生涯学習センター所管事務事業	62
○	図書館所管事務事業	67
○	富良野学校給食センター所管事務事業	71
IV	平成 25 年度学校第三者評価	75
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	85
2、	教育行政評価委員会における意見	86
資料 1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	89
資料 2	教育行政評価委員名簿	90
資料 3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	90
資料 4	平成 25 年度 富良野市教育行政執行方針	91
資料 5	平成 25 年度 富良野市教育委員会 重点事項	97

I 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第 27 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成 20 年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成 25 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として 59 事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成 19 年度から試行的に学校評価に取り組み、平成 20 年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成 20 年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成 25 年度においては評価項目 16 項目、25 観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成 25 年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会におい

て説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成 23 年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった 16 項目 25 観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 25 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A～D の 4 段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D
件 数	3 1	2 8	0	0
構成比 (%)	5 2 . 5	4 7 . 5	0	0

評価基準 A : 実践が進み成果を上げている。

B : 実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C : 実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D : ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D
件 数	4 4	1 5	0	0
構成比 (%)	7 4 . 6	2 5 . 4	0	0

評価基準 A : 期待どおりの効果が得られたと判断される。

B : やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C : 期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D : 期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。



第2回評価委員会議(8/19)



布礼別小学校訪問
全校給食(7/22)



布礼別小学校訪問
給食後の食育指導(7/22)

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

平成 25 年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を開催し、その他必要に応じて臨時会を開催しました。また、毎月 1 回教育委員会委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、過去の会議の内容等を市ホームページに掲載しています。

以下、平成 25 年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 平成 25 年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：6 回（原則として偶数月第 3 水曜日）

臨時会：8 回（随時）

委員協議会：14 回（原則として毎月第 3 水曜日）

(2) 付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関する事	10
議会の議決を経るべき議案に関する事	4
人事に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	16
その他	7
計	38

2) 教育委員会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第2回 定例会	4月23日 (金)	1)富良野市教育行政評価委員の委嘱について 2)子どもと親の相談員の委嘱について 3)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 4)富良野市スポーツ推進委員の委嘱について 5)富良野市学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 6)富良野市特別支援連携協議会設置規則の一部改正について 7)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 8)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について
第3回 臨時会	5月22日 (水)	1)布礼別中学校閉校に係る要望書受理について 2)富良野市社会教育委員の委嘱について 3)富良野市学社融合推進委員の委嘱について 4)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について
第4回 臨時会	6月15日 (土)	1)富良野市教育委員会委員長選挙について 2)富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
第3回 定例会	6月25日 (火)	1)外国語指導助手就業規則の一部改正について
第5回 臨時会	7月19日 (金)	1)富良野市立布礼別中学校の廃止について
第4回 定例会	8月21日 (水)	1)富良野市立学校設置条例の一部改正について 2)平成24年度富良野市教育行政評価報告について
第6回 臨時会	9月25日 (水)	1)富良野市立小中学校通学区域規則の一部改正について 2)平成25年度就学時健康診断員の委嘱について
第7回 臨時会	10月17日 (木)	1)スクールカウンセラーの委嘱について
第5回 定例会	10月28日 (月)	1)富良野市青少年表彰規則に基づく平成25年度表彰者の決定について
第6回 定例会	12月18日 (水)	1)富良野市学校災害補償規則の制定について 2)富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について 3)外国語指導助手就業規則の一部改正について 4)富良野演劇工場運営委員の委嘱について
第1回 臨時会	1月24日 (火)	1)戸倉育英基金条例を廃止する条例について
第1回 定例会	2月12日 (水)	1)富良野演劇工場設置条例の一部改正について 2)富良野スポーツセンター条例の一部改正について 3)富良野市屋外スポーツ施設設置条例の一部改正について 4)平成26年度富良野市教育計画（社会教育編）について

第2回臨時会	3月11日 (火)	1)教職員人事の内申について
第3回臨時会	3月26日 (水)	1)富良野市スクールカウンセラー設置規則の制定について 2)富良野市子どもと親の相談員設置規則の制定について 3)戸倉育英基金規則を廃止する規則の制定について 4)富良野市育英基金育英生の選考について 5)平成26年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 6)平成26年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 7)平成26年度富良野市学校医等の委嘱について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第5回協議会	4月23日 (金)	協議1)富良野市教育行政評価委員の委嘱について 協議2)子どもと親の相談員の委嘱について 協議3)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 協議4)富良野市スポーツ推進委員の委嘱について 協議5)富良野市学校施設利用に係る学校開放主事及び学校開放管理指導員の委嘱について 協議6)富良野市特別支援連携協議会設置規則の一部改正について 協議7)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議8)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について 報告1)体罰調査について 報告2)平成25年度富良野市教育委員会重点事項について 報告3)平成25年度授業公開日について 報告4)平成25年度富良野市小中学校主な行事予定について 報告5)平成25年度学級編成及び学校職員名簿について 報告6)東小学校改築、麓郷小学校屋体解体、樹海小学校耐震調査について
第6回協議会	5月22日 (水)	協議1)布礼別中学校閉校に係る要望書受理について 協議2)富良野市社会教育委員の委嘱について 協議3)富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議4)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 報告1)麓郷小学校屋内運動場改築事業について 報告2)2013こどもの図書館まつりについて 報告3)麓郷小学校図書館環境改善事業について 報告4)24年度市ホームページ教育委員会分アクセス数について
第7回協議会	6月15日 (土)	協議1)富良野市教育委員会委員長選挙について 協議2)富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について 報告1)東小学校校舎・屋内運動場改築事業について

		報告2)麓郷小学校屋内運動場改築事業について 報告3)東麻町教職員住宅の解体について
第8回 協議会	6月25日 (火)	協議1)外国語指導助手就業規則の一部改正について 報告1)平成25年度第2回定例会について
第9回 協議会	7月19日 (金)	協議1)富良野市立布礼別中学校の廃止について 報告1)富良野地区中体連大会結果報告について 報告2)学校支援ボランティア活動状況調査について 報告3)平成25年度少年野球国際交流事業について
第10回 協議会	8月21日 (水)	協議1)富良野市立学校設置条例の一部改正について 協議2)平成24年度富良野市教育行政評価報告について 報告1)平成25年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会について 報告2)平成25年度少年野球国際交流事業報告について
第11回 協議会	9月25日 (水)	協議1)富良野市立小中学校通学区域規則の一部改正について 協議2)平成25年度就学時健康診断員の委嘱について 報告1)平成25年第3回富良野市議会定例会について 報告2)人権擁護委員・主任児童委員との意見交換会について 報告3)北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会について 報告4)富良野警察署との連携に関する変更協定書について
第12回 協議会	10月28日 (月)	協議1)富良野市青少年表彰規則に基づく平成25年度表彰者の決定について 報告1)樹海小学校耐震補強について 報告2)道外視察研修報告について 報告3)北海道学力推進協議会について
第13回 協議会	11月23日 (土)	報告1)2013図書館まつり実績について
第14回 協議会	12月18日 (水)	協議1)富良野市学校災害補償規則の制定について 協議2)富良野市教育委員会非常勤嘱託職員取扱規則の一部改正について 協議3)外国語指導助手就業規則の一部改正について 協議4)富良野演劇工場運営委員の委嘱について 報告1)第4回富良野市議会定例会について 報告2)第11回ふらの演劇祭事業報告について 報告3)こども未来づくりフォーラムについて 報告4)台湾国の事前訪問について 報告5)全国学力学習状況調査の結果概要について 報告6)いじめの把握のためのアンケート調査結果について 報告7)富良野市中高等学校経営連絡協議会「学力向上プロジェクトチーム」専門部活動報告について
第1回 協議会	1月24日 (火)	協議1)戸倉育英基金条例を廃止する条例について 報告1)イングリッシュキャンプについて 報告2)家庭教育支援事業「親子で楽しむ絵本ライブ」について 報告3)布礼別中学校閉校式について

第2回 協議会	2月12日 (水)	協議1)富良野演劇工場設置条例の一部改正について 協議2)富良野スポーツセンター条例の一部改正について 協議3)富良野市屋外スポーツ施設設置条例の一部改正について 協議4)平成26年度富良野市教育計画(社会教育編)について 報告1)全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の概要について 報告2)富良野市公園条例の一部改正について
第3回 協議会	3月11日 (火)	協議1)教職員人事の内申について
第4回 協議会	3月26日 (水)	協議1)富良野市スクールカウンセラー設置規則の制定について 協議2)富良野市子どもと親の相談員設置規則の制定について 協議3)戸倉育英基金規則を廃止する規則の制定について 協議4)富良野市育英基金育英生の選考について 協議5)平成26年度富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議6)平成26年度富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議7)平成26年度富良野市学校医等の委嘱について 報告1)第1回富良野市定例市議会定例会について 報告2)市内小中学校「学校いじめ防止基本方針」について 報告3)土曜日の教育活動推進について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月2日 4月10日 4月23日	・教職員着任式 ・転入校長、教頭歓迎会 ・学校訪問(樹海中、樹海小、麓郷小中、富良野東中、緑町児童センター)	文化会館 ワインハウス 各小中学校
5月15日 5月22日 5月22日 5月23日 5月下旬～	・平成24年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会 ・平成25年度少年の主張大会 ・学校訪問(富良野小) ・第21回富良野市少年育成協議会 ・各小中学校運動会(5月下旬～6月上旬)	上川合同庁舎 文化会館 富良野小学校 図書館 各小中学校
6月11～ 21日 6月15日 6月25日	・平成25年第2回富良野市議会定例会 ・平成25年度富良野市音楽大行進 ・学校訪問(扇山小、布部小中、山部小、山部中東小、富良野西中)	市役所議事堂 文化会館 各小中学校

Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

7月1日 7月12日 7月19日 7月24日 7月25日 7月27日 7月30日	・第22回富良野市少年育成協議会 学校訪問 ・社会を明るくする運動街頭パレード ・外国語指導助手退任式 ・上川管内教育委員会連合会委員長部会研修会 ・巡回ラジオ体操会 ・西脇市、富良野市友好都市親善協定提携35周年式典 ・第1回富良野市議会臨時会	富良野小学校 市内 図書館 上富良野町 陸上競技場 ニューふらのホテル 議事堂
8月21日	・学校訪問（布礼別小中、鳥沼小）	各小中学校
9月3～4日 9月4～13日 9月中旬～ 9月25日 9月26日	・平成25年度北海道都市教育委員会連絡協議会 定期総会 ・平成25年第3回富良野市議会定例会 ・各小中学校学芸会、学校祭（9月中旬～11月上旬） ・第23回富良野市少年育成協議会 学校訪問 ・第39回富良野市小中学校音楽発表会	文化会館 市役所議事堂 各小中学校 富良野西中学校 文化会館
10月2～4日 10月17～18日 10月28日	・平成25年度富良野市教育委員会教育委員道外視察 ・第35回全国公民館研究集会 ・市長と教育委員の懇談会	埼玉県川越市 東京都武蔵野市 文化会館 市役所
11月3日 11月3日 11月7～8日 11月23日 11月26日	・富良野市条例表彰式 ・富良野市文化団体協議会表彰式 ・平成25年度上川管内教育委員連合会第2回委員研修会 ・平成25年度富良野市青少年表彰式 ・子ども未来づくりフォーラム	市役所 文化会館 東川町 文化会館 文化会館
12月3～13日	・平成24年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂
1月6日 1月12日 1月10日 1月10日 1月17日 1月24日	・平成26新年交礼会 ・平成26年富良野市成人式 ・平成26年山部地区新年交礼会 ・平成26年東山地区新年交礼会 ・平成26年富良野市新春教育懇話会 ・平成25年度富良野市PTA連合会新年懇親会	文化会館 文化会館 山部福祉センター 東山公民館 ハイトふらの ハイトふらの
2月12日 2月14日 2月16日	・上川南部教育委員会教育委員研修会 ・第24回富良野市少年育成協議会 ・布礼別中学校閉校式	上富良野町 図書館 布礼別小中学校

3月3～ 20日	・平成26年第1回富良野市議会定例会	市役所議事堂
3月上旬～	・各小中学校卒業式(3月上旬～中旬)	各小中学校
3月9日	・富良野東中学校屋内運動場落成式	富良野東中学校
3月7日	・上川管内教育委員会連合会委員長部会	旭川市
3月16日	・麓郷小中学校屋内運動場落成記念式典	麓郷小中学校
3月26日	・校長、教頭惜別式	ハイランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員の服務の監督の一般方針を定めること。
- (10) 人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育長、部長、課長、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例及び戸倉育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会活動の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

議案として取り扱う中でも、内容の軽重を吟味・精査し、慎重な審議が必要な案件についてはしっかりと時間をかけて議論することができるよう、事前に資料等を送付し、内容についての検討などの準備を行いました。

2) 学校訪問について

15校ある小中学校を全て訪問しながら、校長・教頭から説明を受けた後、児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から学校現場の実態把握と学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、青少年表彰式、成人式、音楽大行進、少年育成協議会等の行事や式、会議にも出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の委員研修会にも積極的に参加するとともに、富良野市で開催された全国公民館研究集会にも参加しました。

また、教育委員道外視察研修では文部科学省の紹介により、図書館活動や複合施設のメリットを生かした生涯学習支援、学校教育と社会教育の連携によるコミュニティ活動の連携事業等の先進地である埼玉県川越市、東京都武蔵野市を視察し、委員の自己研鑽に努めてきました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政を推進しています。

Ⅲ 平成25年度教育委員会事務事業点検・評価

◎事務事業点検・評価結果一覧

所管課	評価項目	細項目	25年度評価		備考
			達成度	効果度	
学校教育課	1 市立小中学校配置計画	1 ・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2 学校施設整備	2 ・東小学校校舎・屋内運動場改築事業	A	A	新規評価項目
		3 ・麓郷小学校屋内運動場改築事業	A	A	新規評価項目
		4 ・樹海小学校耐震改修事業	A	A	新規評価項目
	3 全国学力・学習状況調査	5 ・全国学力・学習状況調査	A	A	
	4 全国体力・運動能力等調査	6 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	5 幼児教育	7 ・私立幼稚園就園奨励費補助事業	A	A	
		8 ・預かり保育補助事業	A	A	
		9 ・障がい児保育補助事業	A	A	
	6 心の教育	10 ・適応指導教室事業	A	A	
		11 ・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
		12 ・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
		13 ・心に響く道徳教育事業	A	A	
	7 少年育成協議会	14 ・少年育成協議会	A	A	
	8 特別支援教育	15 ・特別支援教育支援員活動事業	B	A	
		16 ・特別支援連携協議会事業	B	A	
社会教育課	9 キャリア教育	17 ・富良野市キャリア教育推進会議	B	B	
	10 食育	18 ・食育推進事業	A	A	
	11 情報教育	19 ・電子黒板等利活用事業	B	A	
	12 国際理解教育	20 ・外国語指導助手招致事業	A	A	
	13 健康診断事業	21 ・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A	
	14 小中学校歯科衛生	22 ・フッ化物洗口事業	A	A	新規評価項目
	15 高校教育	23 ・高校教育の推進	A	A	
	16 家庭教育	24 ・家庭教育支援事業	B	A	
		25 ・親と子のふれあい事業	B	A	
	17 生涯学習の基盤整備	26 ・コミュニケーション教育推進事業	B	B	新規評価項目
	18 青少年教育	27 ・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
		28 ・子ども会育成事業	B	B	
		29 ・青少年表彰事業	B	B	
		30 ・青少年補導センター運営事業	B	B	
		31 ・放課後子ども教室推進事業	B	A	
		32 ・学社融合推進事業	A	A	
		33 ・青年活動活性化事業（青年塾）	B	B	
	19 成人教育	34 ・ふらの市民講座事業	B	B	
	20 高齢者教育	35 ・ことぶき大学運営事業	B	B	
	21 芸術文化	36 ・富良野芸術文化事業協会事業	B	B	
		37 ・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B	
		38 ・市民総合文化祭事業	B	B	
		39 ・ふらの演劇祭事業	B	A	
		40 ・舞台塾ふらの事業	B	A	

所管課	評価項目		細項目	25年度評価		備考	
				達成度	効果度		
社会教育課	22	スポーツ振興	41・スポーツ環境の整備	B	B		
			42・人材及び団体育成	B	B		
			43・スポーツ施設の整備及び管理運営	B	A		
			44・競技スポーツの育成	A	A		
			45・アスリート育成派遣事業	A	A		
			46・子どもスキー技術向上支援事業	A	A		
生涯学習課	23	文化財保護	47・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B		
			48・歴史的建造物魅力再発見事業	A	A	新規評価項目	
	24	博物館	49・博物館活動推進事業	A	A		
			50・自然体験・環境学習事業	A	A		
	25	文化振興	51・山部菊の会補助金	B	B	新規評価項目	
図書館	26	図書館	52・図書館運営管理事業	A	A		
			53・図書資料整備事業	B	A		
			54・読書活動推進事業	A	A		
			55・子どもの読書推進事業	A	A		
富良野学校給食センター	27	富良野学校給食センター	56・安全安心な学校給食の提供	A	A		
			57・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A		
			58・食に関する指導の推進	B	A		
			59・学校給食費の徴収	A	A		
評価結果：集計				A	31	44	
				B	28	15	
				C	0	0	
				D	0	0	
				計	59	59	

①達成度の評価基準

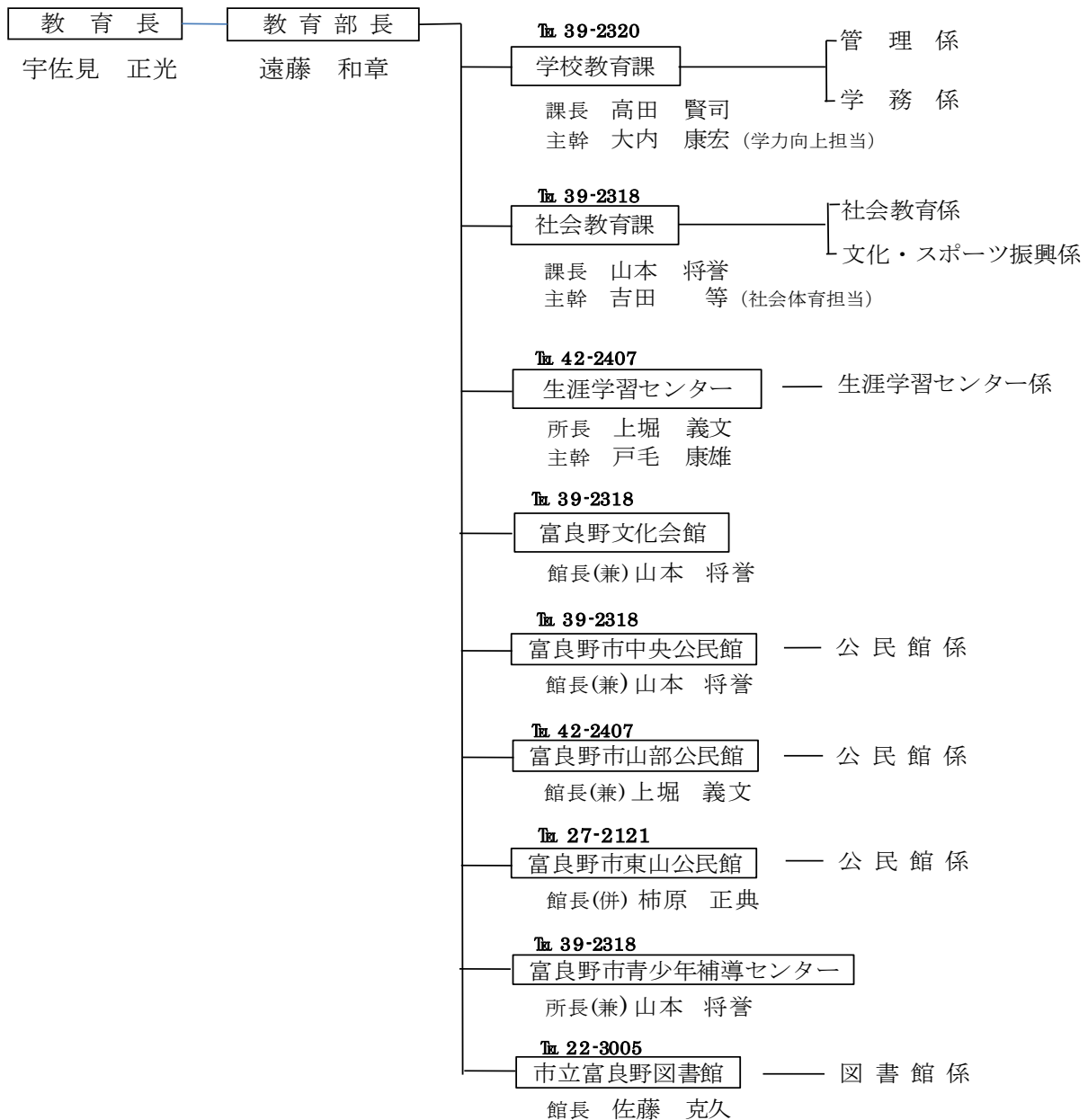
- A：実践が進み成果を上げている。
 B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
 C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
 D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
 B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
 C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
 D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

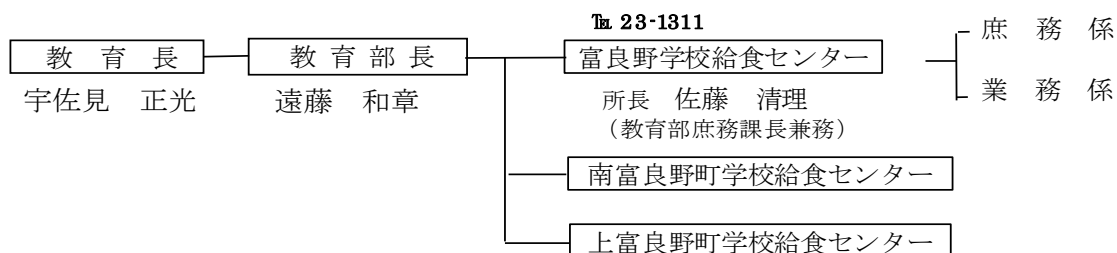
富良野市教育委員会行政組織図

平成25年4月1日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成25年4月1日現在



平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画	担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針						
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくため方向性を示す。	事業年度	開 始		終 了		
			初回平成17～19年度 平成21年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
			—	—	—	—	
前年度の課題	○施設整備については国の予算を見極めて残る学校の整備方針及び優先順位の検討が必要。 ○学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。 ○樹海小学校校舎は、昭和55年度建築であるので、耐震2次診断を実施し、今後の施設整備を検討する必要がある。						
当該年度の目標	少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を整える。						
事業の実施状況	平成22年度に市P連より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校（富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中）を順次計画的に検討、整備することとし、平成25年度は、平成26年度の完成に向け東小学校校舎・屋内運動場改築工事を着工した。 また、麓郷小学校の屋内運動場が、耐力度調査の結果、危険であることが判明したため、この改築事業に着手し完了した。樹海小学校においても平成26年度の耐震化工事に向けて実施設計を行った。 学校の適正規模適正配置に関しては、麓郷地区においてPTA・地域住民からの麓郷小学校と麓郷中学校の併置化要望を受け、平成25年度より麓郷小学校校舎にて併置校として再スタートした。 また、布礼別地区においては、PTA・地域住民より布礼別中学校を閉校し富良野東中学校への校区変更要望があり、これを受けて、平成25年度をもって布礼別中学校を閉校し、平成26年度から富良野東中学校へ校区を変更した。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。 ○残る学校の施設整備についても、それらの意見内容や方向性を考慮しながら実施の時期や内容を検討しなければならない。						
	改 善 策						
	○麓郷、布礼別地区の学校については、それぞれの特徴を活かした学校活動の実践に向け、引き続きサポートを行う。 ○今後も児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえながら、学校の適正規模適正配置や在り方の協議を進める。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	東小学校校舎・屋内運動場改築事業						
事業の目的・概要	教育環境の向上と児童生徒の安全を確保するとともに、災害時の避難施設としての機能を高める。	事業年度	開 始		終 了		
			平成24年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	実施設計 31,982	901,383	
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○新施設建築に伴い支障となる物件の撤去または移設と既存屋内運動場の解体 ○新校舎・屋内運動場改築工事の実施（工期：平成25年6月～平成26年7月）						
事業の実施状況	○東小学校の校舎及び屋内運動場は、耐力度調査の結果、構造耐力及び保存度において危険な状態の建物であることが判明した。これを受け校舎と屋内運動場の全面改築に向け、平成24年度より実施設計に取り掛かった。 ○新施設概要 鉄筋コンクリート造 2階建 5,671㎡（校舎4,669㎡、屋体1,002㎡） ○工事期間中の体育授業や運動会、学芸会等の実施にあたっては、人材開発センターなどの代替え施設を確保し実施。 ○国庫補助 公立学校施設整備費国庫負担金 130,008千円（平成25年度分） 学校施設環境改善交付金 326,637千円（平成25年度分）						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	A	A	
	効果度	—	—	—	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○改築工事は順調に進んでおり、平成25年度に予定した作業内容を事故も無く完了している。 ○工事に伴う授業などへの影響も代替え施設の確保などにより、最小限に留めることができています。						
	今 後 の 課 題 ○引き続き、児童生徒や地域住民に配慮しながら、改築工事を進めるとともに、既存校舎の解体工事にあたっては、安全な工事施工はもとより、児童生徒や近隣住民の安全にも十分注意しながら行わなければならない。 ○新校舎への引越しを平成26年夏休み中に予定しているが、新校舎完成から2学期始業式までの期間が短いため、短時間で効率よく引越し作業を行わなければならない。						
今後取り組み	改 善 策						
	○引き続き、児童生徒や地域住民の安全に配慮しながら改築工事を進めるとともに、授業に与える影響を最小限にできるよう配慮する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	麓郷小学校屋内運動場改築事業						
事業の 目的・概要	教育環境の向上と児童生徒の安全を確保するとともに、災害時の避難施設としての機能を高める。	事業年度	開 始		終 了		
			平成24年度		平成25年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	体力度 調査費 1,260	304,172	
前年度の 課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の 目標	○危険な状態にある屋内運動場を改築し、児童生徒が安心して学習できる環境を整備するとともに、災害時に避難場所として利用する際の安全性や利便性を高める。						
事業の 実施状況	○麓郷小学校の屋内運動場は、建築後38年以上が経過しており、平成24年度に実施した耐力度調査の結果、構造耐力及び保存度において危険な状態の建物であることが判明した。 耐力度点数 3,095点 ○構造等 木造 平屋建 911㎡(渡り廊下含む) ○諸室 アリーナ、ステージ、器具庫、放送室、機械室更衣室、男女トイレ、多目的トイレ(オストメイト・ベビーシート)、ホール ○主要設備 高効率暖房機、LED照明、外部電源入力装置、車いす対応水飲み、玄関スロープ ○国庫補助 公立学校施設整備費国庫負担金 53,658千円 学校施設環境改善交付金 106,859千円 ・富良野地域で間伐された唐松を原料とした集成材を柱と梁に使用。 ・暖房設備に高効率の高温風暖房機を導入。従来の暖房機より省エネ性能に優れる。 ・停電時でも発電機を接続することで、アリーナ照明と暖房を使用することが可能。 ・クロスカントリースキー大会の運営拠点として活用できるよう配慮。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	A	A	
	効果度	—	—	—	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○今回の改築工事により、麓郷小学校屋内運動場については躯体及び非構造部材の耐震化が図られたが、改築を必要としない学校施設の非構造部材について点検や耐震化を検討する必要がある。						
	改 善 策						
	○非構造部材の耐震化にあたっては、富良野市立学校全体の計画により対応していかなければならないので、整備計画策定に向けて検討する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	樹海小学校耐震改修事業費						
事業の 目的・概要	新耐震基準施行前に建築された樹海小学校校舎の耐震性能を調査し、性能不足の場合は児童生徒の安全を確保できるよう、建物の耐震化を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	—	4,430	
前年度の 課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の 目標	○新耐震基準施行前に建築された樹海小学校校舎の耐震性能を調査し、性能不足の場合は、児童生徒の安全を確保できるよう、耐震化に向けた実施設計を行う。						
事業の 実施状況	○耐震診断の結果 Is値 0.62 (耐震性不足) ○耐震化等実施設計 (平成26年度実施予定) 校舎に老朽化がうかがえることから、耐震化工事に加え改修工事を実施する。 ・スリット工法による耐震化 ・教室と廊下を間仕切るブロック壁を改修 ・外壁補修及び塗装 ・窓ガラス、ガス給湯器、換気扇の交換及び網戸設置 ・外部電源入力装置 ・教室及び職員室のLED照明化 ○国庫補助 住宅・建築物安全ストック交付金 905千円						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	—	A	
	効果度	—	—	—	—	A	
今後の 取組	今 後 の 課 題						
	○平成26年度に耐震化及び改修工事を実施する予定であるが、実施にあたっては、授業等への影響が最小限になるよう施工方法や施工時期を検討する。						
	改 善 策						
	○山部中学校の校舎及び屋内運動場と樹海中学校の校舎及び屋内運動場が、新耐震基準施行前に建築されたが、今後の学校再編等も考慮しながら耐震性能について調査していく必要がある。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
国費	国費		国費	国費	国費		
前年度の課題	○改訂予定の学校教育中期計画にも具体的に位置づけをし、確かな学力向上をめざして、これまで以上に授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の学力の向上と状況調査						
事業の実施状況	○実施日 平成25年4月24日(水) ○実施対象及び人数 小学6年生:222名 中学3年生:236名 ○実施教科 国語、算数・数学 学力調査の結果は、小学校では、算数の「活用」に関する問題は、全道平均正答率を上回っており、算数の「知識」に関する問題は、全道平均正答率と同等である。 中学校では、国語・数学の「知識」に関する問題は、全道平均正答率を上回っており、全国平均正答率と同等である。国語・数学の「活用」に関する問題は、全国・全道平均正答率と同等である。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○言語活動を重視した授業、演劇を通じた表現活動等により、自己表現や協調性が培われてきている。 ○また、表現教育は、反復練習(学習)や集中力アップ等の効果が期待でき、学力向上・コミュニケーション能力向上につながっている。 ○学力向上に向けた放課後学習や長期休業中の学習を全小中学校で取り組んでいる。						
	今 後 の 課 題 ○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。 ○指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員等外部人材活用事業による時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査						
事業の目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検討し、その改善を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21 国費	H22 国費	H23 国費	H24 国費	H25 国費
前年度の課題	○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果を把握・分析し、各学校における体育・健康に関する指導などの改善を図る必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の体力の向上と現状調査						
事業の実施状況	○平成25年度は、4月から7月末の間に調査を実施（平成25年度は全校実施） ・実施対象 小学校5年生：231名、中学校2年生：234名 ・実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ - 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ ○体力合計点数では小学生男子・女子、中学校男子が全道平均を上回っているが、全国平均を下回っている。また、児童・生徒への質問紙調査では、小中学生男女とも中学校女子で「スポーツが好き」及び「やや好き」と回答した率が全国・全道平均より下回っている。 「運動・スポーツをほとんど毎日実施している」及び「運動部やスポーツクラブに属している」と回答した率が全道平均を上回っている。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取組み	達成度・効果度の検証						
	○各学校・地域を挙げた体力づくり、スポーツ少年団活動、部活動が継続的に取り組まれており、各種大会でも優秀な成績を上げている。						
	今 後 の 課 題 ○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果を把握・分析し、各学校における体育・健康に関する指導などの改善を図る必要がある。						
今後の取組み	改 善 策						
	○小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域スポーツ関係団体と連携しながらスポーツにふれ合うことで「知育・徳育・体育」の調和のとれた成長を促進する。 ○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動の取組みによる食育を通じた体力向上を図り、「チャレンジデー」などの体力向上のイベントへの積極的な参加を引き続き推進する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	私立幼稚園就園奨励費補助						
事業の 目的・概要	幼稚園教育の普及・充実と子育て支援を図るため、国の基準に準じ、保護者の経済的負担軽減を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
34,554	35,943		39,371	39,393	37,665		
前年度の 課題	○国の制度で基準により実施している。 ○本制度に関しては、国の補助率を1/3以内としているが、実際には20%強の補助金しか市町村に交付されていない。道等を通じて地方に過重な負担がかからないように働きかけが必要である。						
当該年度の 目標	○保護者の負担軽減を図り、幼稚園教育を充実する						
事業の 実施状況	○国の幼稚園就園奨励費補助金交付要綱（平成10年6月17日文部大臣裁定）に基づき実施。 ○園則に定める入園料及び保育料を上限に補助金を交付し、保護者の子育てにおける経済的負担を軽減する。 平成25年度支給者計 332名（平成24年度 355名） ○通園する84%の世帯が対象となっている。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○国の制度基準により実施している。 ○本制度に関しては、国の補助率を1/3以内としているが、実際には20%強の補助金しか市町村に交付されていない。道等を通じて地方に過重な負担がかからないように働きかけが必要である。						
	改 善 策						
	○国に対しては、全国市長会などを通じて働きかけを行っている。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	預かり保育補助事業						
事業の 目的・概要	子育て支援を目的とし、また保護者の就業を支援するため、幼稚園における預かり保育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
1,229	1,221		1,413	1,369	1,421		
前年度の 課題	○子育て支援の充実						
当該年度の 目標	○預かり保育の充実により、保護者ニーズに対応した幼稚園教育を実現する。						
事業の 実施状況	○幼稚園に対して預かり保育の充実を図り、保護者負担の軽減を図るため、預かり保育対象園児の人数及び延長時間実施の日数並びに、土日・長期休業期間の実施日に対して補助金を交付。 ○総園児数392名に対し121名（31%）が利用し、市内4園で8学級が開設されている。 1学級35名を限度に1名以上の教員を配置することを条件に補助。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○預かり保育を希望する保護者のニーズに応じて実施されており、預かり保育利用料についても安価で行われている。						
	今 後 の 課 題 ○子育て支援のさらなる充実						
今後 の 取組	改 善 策						
	○子育て支援のさらなる充実を支えるための予算措置を検討						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	障がい児保育補助事業						
事業の 目的・概要	私立幼稚園における障がい児教育の充実と保護者負担の軽減を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
700	800		600	400	900		
前年度の 課題	○幼稚園、保育所を含めた 障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
当該年度の 目標	○引き続き、障がい児の幼児教育を受ける機会を確保する。						
事業の 実施状況	○5月1日現在で在籍している障がい児に対する教育を実施するため補助金を交付 ○園児一人当たりの交付額 100,000円 ○平成25年度は市内4園の9名が対象 ○特別支援連携協議会にて、各小学校のコーディネーター、相談員等が幼稚園・保育所を訪問し、就学時のスムーズな引継ぎが行える取組みを実施。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○障がい児の幼児教育を受ける機会が確保できた。 ○市特別支援教育マスタープランに基づき、専門家チームが就学前相談や指導等を行い、連携強化を図っており成果が上がっている。						
	今 後 の 課 題 ○引き続き、幼稚園、保育所を含め障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
今後 の 取組	改 善 策						
	○特別支援連携協議会の取組みにより、障がい児の幼児教育のさらなる充実や義務教育への引継ぎを円滑に行う。 ○幼・保・小との連携を図るため「育ちと学びのファイル すくらむふらの」を活用し、円滑な就学支援を行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の 目的・概要	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、保護者、学校、関係機関等との連携のもと学校への復帰訓練と基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 ○不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。 ☆焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進	事業年度	開 始		終 了		
			平成15年度		継続		
				事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23
			1,800	1,800	1,800	2,592	2,592
前年度の 課題	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知していく。						
当該年度の 目標	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。						
事業の 実施状況	○不登校児童への支援・指導内容の充実。 ○不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図った。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努めた。 ○平成24年度からより専門性を持った個々の課題に対応できる人材（臨床心理士等）を確保し、きめ細やかな支援ができる体制を整えた。 ☆焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	○ひとり一人の実態に即した教育相談・学校支援や多様な体験活動を行い、「ひきこもり」の解消、学校復帰、社会的な自立心の育成のため、生活意欲を培うとともに、基礎的な学力の定着・基本的な生活習慣の改善・豊かな情操・社会性を育む指導に努めている。 併せて、保護者に対する支援や相談に重点を置いている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
	改 善 策						
	○周知の手段として「適応指導教室」での取組みなどを諸会議で報告し、活動内容のチラシなどを配布するとともに、気軽に教室を訪問してもらうよう、学校等への周知を深める。 ○適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも原因が起因していることから、児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要となっており、家庭、学校、関係機関及び家庭児童相談員との連携を図り取組んでいく。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
			道費	道費	道費	道費	道費 一部市費 268
前年度の課題	○各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	○生徒へのカウンセリング ○教職者に対する助言・援助 ○保護者に対する助言・援助 ○H25年度実績 3校(中学校) (道費) 日数・時間 32日×2校、2日×1校 259時間、来談者275名 ※生徒、教員、保護者 (市費) 日数・時間 22日 51時間、来談者87名 ※生徒、教員、保護者 ※道費による派遣拡充事業 通年配置以外の5校で実施 10日20時間 実施内容・・・個別カウンセリング、教員研修						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にある。引き続き教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
	改 善 策						
	○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、こうした事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進めるとともに、小学校に子どもと親の相談員の配置を継続する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員						
事業の目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図る。 ○相談員を小学校に配置 ①児童の話し相手・悩み相談 ③その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	374	374	1,644	1,661	1,658		
前年度の課題	○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応が必要である。また、現在は富良野小学校、扇山小学校、東小学校に配置しており、よりきめ細やかな対応が必要である。						
当該年度の目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。						
事業の実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小学校、扇山小学校、東小学校） ①児童の話相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ396名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童、教員、保護者						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○教室とは違った親しみやすく和める場所として開放したことにより、訪れる児童が多い。気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任に報告することで、きめ細かな見守りや相談活動を行うことができた。						
	今 後 の 課 題 ○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。						
今後取り組み	改 善 策						
	○来談児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として専門的知識を有した者（臨床心理士等）の配置が引き続き必要。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳事業						
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	学社融合推進事業費活用	78	65	69	88		
前年度の課題	○引き続き、富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
当該年度の目標	○命を大切にすることをはぐくむ教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実						
事業の実施状況	○富良野ゆかりの講師による道徳教育の実施 ・富良野商工会議所 会頭 荒木毅 実施校5校 演題「職業観と人間の生き方」 ・富良野自然塾 副塾長 林原博光 実施校2校 演題「環境教育と人間の生き方」 ・静琴書道学院 主宰 大橋静琴 実施校5校 演題「書を通しての生きざま」 ・北海道大学 農学研究院長 松井博和 実施校1校 演題「地球の歴史と人間の生き方について」						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	A	A	A	A	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○学習状況調査において、「人が困っている時は、進んで助ける」と答えた児童生徒の割合が高かったことから、命の大切さや他人を思いやる心が育ってきている。						
	今 後 の 課 題 ○富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
今後取り組み	改 善 策						
	○学校と講師の日程調整などを円滑に行いながら、多くの学校で富良野にゆかりのある講師による道徳教育を推進する。 ○市内企業からも講師派遣について協力を願う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	少年育成協議会	担当課	学校教育課				
事務事業名	少年育成協議会						
事業の目的・概要	いじめや不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策などについて、関係機関団体などが連携して学校・家庭・地域でのネットワーク化を図り、日常的に情報交換を行い、迅速かつ的確に対応する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成18年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	—	—	
前年度の課題	○各関係機関との連携を図り情報共有して取り組んでいるが、いじめ対策、不登校対策、下校時の安全対策、虐待防止対策など各関係機関や団体の事例発表、情報交換の場となっている。 今後は相互に連携した取り組みを進める必要がある。						
当該年度の目標	○地域で連携し子どもたちの安全・安心の推進。						
事業の実施状況	○市内19の関係機関・関係団体が協議会を開催し、情報共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 5月23日、7月1日、9月25日、2月24日開催 ○協議会構成団体 ・富良野市校長会 ・富良野市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部こども未来課 ・家庭児童相談室 ・社会教育委員会 ・富良野市教育委員会						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○各関係機関との連携を図りながら情報共有しているが、相互に連携した取り組みを進める必要がある。						
	改 善 策						
	○各関係機関が取り組んでいる事業を相互連携した取り組みとして、更なる連携・情報交換を進めていく。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員						
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がより求められている。 こうした児童生徒に対する日常生活や学習支援、安全確保などの学習活動上のサポートを行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		6,371	7,711	10,498	13,355	15,492	
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 ○増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 ○各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	○配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進めている。 配置支援員 富良野小4名、扇山小3名、東小3名、山部小1名、鳥沼小1名、東中1名、西中1名の計14名(平成24年度 計12名) 対象児童 264名(平成24年度 212名)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○各学校のコーディネーターとの関わり、担任との情報共有の部分で課題が見られたが、改善しながら適切な支援に取り組むことができた。						
	今 後 の 課 題 ○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 ○増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 ○各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。 改 善 策 ○研修・講習会に参加し、困り感を抱える児童生徒への適切な支援を行えるよう、更なるスキルアップを行う。 ○各学校が抱える課題を連携会議等、教育、福祉部門で共有しながら、課題解決ができる環境を整備する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会						
事業の 目的・概要	富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、全ての幼児・児童・生徒が、障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図る。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学指導)を設置	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	237	238	177	114	160		
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 ○引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉医療機関との一貫した連携が必要。						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チームスタッフの増員) ○富良野市特別支援教育マスタープランの検証と評価 ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月15日、10月21日、10月28日 ○研修会の実施 ①WISC-Ⅲ研修 8月16日 19名 ②道立特別支援センター研修会 8月26日 70名 ③特別支援教育研修会 9月6日 47名 (講師:北海道札幌養護学校 教諭 郡司竜平氏)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題 ○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 ○引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携と共通認識による引継ぎが必要。						
	改 善 策						
	○就学相談を含めた相談支援体制の更なる強化が必要であり、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解をしていく。 ○富良野市特別支援教育マスタープランの検証及び評価と見直しを行い、第2次マスタープランを策定する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の 目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を押し進めていく必要がある。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
			—	—	—	—	
前年度の 課題	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観の育成を図る。						
事業の 実施状況	○職場体験実施校 中学校：7校 高等学校：2校 ○関係機関等との連携 ・富良野商工会議所により事業所紹介 ・ハローワーク旭川による職業講話の斡旋						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証 ○職場見学や職場体験学習等は、授業では味わえない経験ができているが、キャリア教育を教育活動全体を通じた活動となっていない。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学校と家庭・地域・事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。 ○各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。 ○小学校・中学校・高等学校のキャリア教育の取り組みの連携を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育んでいくことを目的とし、ガイドラインを基に食育推進を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		33	33	35	4	27	
前年度の課題	○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。						
事業の実施状況	○平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で全員配布。 ○栄養教諭（2名）の配置。 ○栄養教諭による食育指導と啓発活動。 ○市ホームページを通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○「子どもたちのための食育ガイドライン」等をホームページに掲載し、広く市民に紹介。 ○概略版の作成・配布により、児童生徒及び保護者へ啓発。						
	今 後 の 課 題 ○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しを行い、改訂版作成に取り組む必要がある。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う。 ○栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の改訂版作成に向けた取組を行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	電子黒板利活用事業（H20、21年度は教育用コンピューター整備事業）						
事業の 目的・概要	電子黒板の活用は、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、教員の授業研究・授業公開と併せて、電子黒板活用による授業を展開することにより児童生徒の学力内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成21年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		12,776	—	—	—	—	
前年度の 課題	○市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。また、さらなる電子黒板の活用のためデジタル教材の導入に向けた教材予算の確保も必要。 ○iPadのアプリ教材の購入方法の検討。						
当該年度の 目標	○教員による授業研究及び公開授業の推進と児童生徒の学習内容への理解向上						
事業の 実施状況	○デジタル教科書等により電子黒板を活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 ○校内研修等による電子黒板活用方法の理解及び実践。 ○新学習指導要領改訂に伴う教科用図書採択に合わせたデジタル教科書の購入。 ・H23 小学校46セット 中学校14セット ・H24 小学校19セット 中学校 2セット ・H25 小学校 4セット 中学校 1セット ○社会科副読本のデジタル版を制作 ○iPadを全小中学校に導入 ○電子黒板操作研修会 平成25年7月25日実施 22名参加 ○北海道学校体育研究会 平成25年11月8日 ICTを活用した授業展開						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	○デジタル教科書等の活用により、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図れる。
	効果度	B	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。						
	改 善 策						
	○iPadを含めた情報セキュリティの確立。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	外国語指導助手招致事業						
事業の 目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成7年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		10,295	13,795	14,220	14,441	15,145	
前年度の 課題	○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要である。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。 ○イングリッシュキャンプの実施については、社会教育課との連携による充実が必要。 ○小学校における朝の英語活動を全小学校で実施する。						
当該年度の 目標	○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い外国文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。						
事業の 実施状況	○JETプログラムによる外国語指導助手を3名、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名を配置し、市内小学校・中学校に派遣して外国語活動や英語教育、総合的な学習時間で活用した。 ○JETプログラムによる外国語指導助手の更新時にあたり、「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から1名を独自採用を行っている。 ○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図っている。 ○「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを実施。 ・小学校における朝の英語活動を実施 ・えいごLANDの実施・・・扇山小学校、東小学校 ・イクングリッシュキャンプの実施・・・平成26年1月9日～10日 ・社会科副読本を活用・・・英語版ムービー「ふらの」						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題 ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。 ○小学校における朝の英語活動を引き続き全小学校で実施。						
	改 善 策						
	○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、放課後の時間に「えいごLAND」など気軽に英語とかわれる環境づくりを行う。 ○イングリッシュキャンプなどの事業を取り入れコミュニケーション能力向上を図る。 ○「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の 目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
				事業費(決算) (単位:千円)	H21 9,738	H22 9,985	H23 9,616
前年度の 課題	○児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。 ○教職員の健康診断受診率100%の達成と健康管理への意識の向上が必要。						
当該年度の 目標	○児童生徒の健康診断の完全実施						
事業の 実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成25年度受診状況 対象者198名中 198名受診(受診率100%) ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施 ○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施。 ・平成25年度 就学児童 177名実施 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	A	○児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。 ○教職員の受診率は100%となり、健康管理への意識向上が定着してきている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
	改 善 策						
	○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の 目的・概要	北海道は、全国に比べて、12歳児におけるむし歯が多いことから「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度				
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	—	59	382		
前年度の 課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の 目標	フッ化物洗口にあたって、教職員の負担軽減と誤飲等の事故が起こらないよう対応とフッ化物に対する正しい情報の提供。						
事業の 実施状況	○全道実施率（平成25年11月現在） ・小学校 1,147校中 実施 389校 33.9% ・中学校 632校中 実施 65校 10.3% ○上川管内実施率（平成25年度11月現在） ・小学校 133校中 実施 94校 70.7% ・中学校 70校中 実施 14校 20.0% ○富良野市においては全小中学校においてフッ化物洗口を実施。 小学生は1,220名に対し実施率90.7%、中学生は691名に対し実施率81.9%であり、保育所・幼稚園での実施が進んでいることから、全道的にも先駆的な取組みとなっている。 平成25年度実施にあたって、平成24年度に校長会・教職員・保護者を対象に計7回の説明会を実施し試行した。さらに、上川教局・富良野保健所・富良野医師会・富良野薬剤師会の協力を得ながら、関係者へのフッ化物洗口に対する理解と協力を進めた。 実施にあたっては、富良野沿線5市町村教育委員会と共通認識のもと行っており、平成26年度には全5市町村での実施が予定されている。						
評 価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	—	A	
	効果度	—	—	—	—	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。 ○誤飲等の事故予防対策として、各教職員への実施方法の徹底が必要。						
	改 善 策						
	○新入学児童や転校生に対する意向調査の徹底と実施を希望しない児童生徒への対応。 ○養護教諭を中心に、児童・生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	中・高の相互連携による教育振興と魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	—	—	
前年度の課題	○学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。						
当該年度の目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の実施状況	○富良野市中高等学校経営連絡協議会 中学校・高等学校が生徒指導・進路指導などの今日的な教育課題について相互に連携し、富良野地区の高等教育の充実に向けて協議する。 ○学力向上プロジェクトチーム 市教研及び上教研において、高校の教員も参加し相互連携を図り、併せて学力向上のための指導内容、方法の工夫改善等を研究する。 ○富良野高等学校の単位制導入に向けた準備を行った。 【コミュニケーション教育(表現～演劇)】 ・富良野市教育委員会が主催する富良野GROUPを講師とした「教員研修会」に富良野高等学校から2名参加した。 【自然環境教育】 ・富良野の自然や環境を学ぶ科目の設置に向け、富良野自然塾との打合せ機会を設定した。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○富良野地区の子どもたちの学力向上に向けて、高校と中学校教頭による「学力向上プロジェクトチーム」を組織し、高校・中学校の授業を相互に参観し、中高の信頼関係を築くことができた。 ○市教委主催による中学校関係者向け高校説明会を開催し多くの関係者(保護者含む)の出席により、中高が連携して行った取り組みとして意義あるものとなった。						
	今後						
今後の取り組み	○学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。 ○小学校とも連携し、学力向上に向けた取り組みが必要である。						
	改善策						
	○学力向上プロジェクトチームによる、具体的な中高連携の検討、小グループ組織編製の検討を行う。 ○より多くの教員が授業交流できるように検討する。 ○中高連携内容を小学校へも情報提供する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	家庭教育支援事業						
事業の目的・概要	幼児・児童の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成9年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21 290	H22 226	H23 168	H24 256	H25 99
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、家庭教育に関して関心の薄い保護者が依然としており、参加しやすい環境づくりや学習内容の検討が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実						
事業の実施状況	○家庭教育セミナー(4回 延153名参加) ・布部地区(会場:布部小中学校) 「スポーツを通した家庭教育」10/26 28名 ・山部地区(会場:山部小学校) 「医学体操で無理なく健康づくり」11/18 50名 ・東山地区(会場:樹海小学校) 「姿勢・腰痛の予防や改善」11/22 34名 「樹海地区ハートでトーク」12/18 41名 ○家庭教育講演会(5回 延821名参加) ・家庭内コミュニケーション講座(会場:富良野西中学校) 10/25 58名 ・よみきかせ講座「はじめの一步」(会場:文化会館) 11/14 23名 ・「親子で楽しむ絵本ライブ」(会場:文化会館) 1/13 160名 ・「若い皆さんに期待すること」(会場:富良野高校) 3/18 500名 ・インターネットトラブルに関する講演会(市PTA連合会との連携) 11/16 80名 ○家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布 ○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。						
	今 後 の 課 題 ○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した学習機会の提供や情報提供に努める。 ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	親と子のふれあい事業						
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和52年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		市民講座事業・図書館事業に掲載					
前年度の課題	○公民館事業、図書館事業で実施しているが、親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容の充実を図るとともに、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。						
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 ○親子で自然に親しみ、豊かな心を育てる共同体験機会の充実						
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】 ・森の素材でプレートをつくろう 8/7 20名 ・キッズヨガ 6/22 7/6(全2回) 16名 ・親子deふらの産濃厚プリンづくり 5/24 24名 ・親子でわいわいキャラクター弁当づくり 8/10 7名 ・親子で簡単フェルト体験 1/18 9名 ○読み聞かせ(図書館) ・どんぐりおはなし会 44回 延685名 ・おはなし会 12回 延310名 ・えいごのおはなし会 10回 延257名 ○こども図書館まつり 5/8～5/11 延2,300名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	○親と子がふれあう機会を通して絆を確認し、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。						
	改 善 策						
		○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。					

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	生涯学習の基盤整備	担当課	社会教育課				
事務事業名	コミュニケーション教育推進事業						
事業の目的・概要	コミュニケーション能力を育むことにより人間形成・社会との関わりを理解することにより、「他者理解」、「話す・聞くの基本」、「信頼関係の構築」など基本的な要素が身に付き、地域における人と人との絆を深め地域振興につながるため、演劇的手法を用いたワークショップ等を行い、コミュニケーションに係る学習機会の提供を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		新規		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	—	—	1,197		
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	ワークショップを開催し、市民及び関係団体等の学習機会を提供し、コミュニケーション能力の向上に資することを目標とする。						
事業の実施状況	○プログラム ①アイスブレイク ②コミュニケーションゲーム ③デモンストレーション ④対話型アクティビティ ○実施状況 ・実施回数 50回 ・参加人数 延657名 ・実施場所 文化会館中会議室 他 ○対象者年齢別 ・小学生以下 73名 ・中高生 165名 ・成人(60歳未満) 203名 ・成人(60歳以上) 216名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	—	B	
	効果度	—	—	—	—	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○広く情報提供等を行い、コミュニケーション教育事業(ワークショップ)への理解を深めてもらう必要がある。						
	改 善 策						
	○様々な方法で事業内容の情報提供等を行い、より多くの参加者に学習機会の提供を行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども未来づくり事業（子ども未来づくりフォーラム）						
事業の 目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	92	94	74	31	37		
前年度の 課題	○事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。 ○児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力向上に結びつける必要がある。 ○近年「未来への提言」の参加校も固定化されてきており、学習指導要領改訂に伴い、言語力や読解力及び考える力が重視されたことから、次年度に向け構成内容の検討が必要である。						
当該年度の 目標	○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場の提供						
事業の 実施状況	○子ども未来づくりフォーラム 「学校の授業や生徒会活動等で取り組まれている特色ある取組み」や「地域課題解決に向け自分達にできること」、「市民が取り組むべきこと」などについての発表と、5月に実施した「少年の主張大会」の最優秀賞の主張発表を行った。 11/26開催 発表者小中学生92名、観覧児童生徒158名、一般観覧者80名 ・「学習実践発表」8校91名（鳥沼小3・4年生12名、東小5年生12名 山部小5・6年生30名、扇山小6年生6名、富良野小6年生12名、布礼別中1名 富良野西中学生徒会11名、富良野東中学生徒会7名） ・「少年の主張」 少年の主張大会最優秀賞受賞者による主張発表						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。 ○児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力の向上、社会性やリーダーシップを育む機会とする必要がある。						
	改 善 策						
	○学校との連携により、より計画的な事業推進を行うとともに、学習指導要領に沿った取り組み内容の充実を図る。 ○フォーラムの時間配分や会場について、検討を行う必要がある。 ○授業時数の確保もあるが、多くの児童・生徒の参加促進を図る。						

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	子ども会育成事業							
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開 始		終 了			
			昭和38年		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25	
			1,034	1,012	1,022	907	952	
前年度の課題	○子どもの減少等により子ども会加入が困難な地区もあるが、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○より効果的で多様な事業展開を図るため、学校教育など関係機関との連携を図る必要がある。							
当該年度の目標	○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備							
事業の実施状況	○富良野市子ども会育成連絡協議会 ・単位数 21団体 ・会員数 1,045名 ○子ども会事業 ・リーダー研修会【前期】 8/1～3 35名 山部太陽の里キャンプ場 ・リーダー研修会【後期】 3/26～28 69名 国立大雪青少年交流の家 ・シニアリーダー研修(青少年サークル) 5/18 9名 文化会館 7/20～21 7名 国立大雪青少年交流の家 ・イングリッシュキャンプ 1/9～10 15名 国立大雪青少年交流の家 ・育成員研修会 2/11 12名 文化会館 ・かるた大会 1/19 6チーム19名 文化会館 ・ジュニアスノーフェスティバル(少年団本部と共催) 2/16 59名 空知川河川敷地 ・遊びの出前事業 延5回(青少年サークルを単位子ども会・地区子ども会へ派遣)							
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○異年齢集団での様々な活動が、社会性を身につけさせ子どもの成長に大きく寄与している。	
	効果度	B	B	B	B	B		
今後取り組み	今 後 の 課 題							
	○子どもの減少等により子ども会加入が困難な地区もあるが、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○より効果的で多様な事業展開に向け、学校教育など関係機関団体との連携を図る必要がある。							
	改 善 策							
	○子ども会加入の働きかけを継続するとともに、子ども会未加入の子ども達も事業に参加し、異年齢集団を通じた体験により子ども会活動の良さを体験できる多様な活動内容の充実を図る。 ○時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 ○学校教育をはじめ、各関係機関団体との連携による事業展開を図る。							

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の 目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費（決算） （単位：千円）	H21	H22	H23	H24	H25
30	36		46	58	39		
前年度の 課題	○個人、団体の両面から広く該当者を発掘し推薦してもらう必要がある。						
当該年度の 目標	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成						
事業の 実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・11/23開催 文化会館大会議室 ・被表彰者 1団体・1個人 ○表彰基準 ・個人 概ね30歳までの青少年で、次に掲げる活動を3年以上実践している者 ア) 公共の福祉増進のための行為や努力した者 イ) 生産性の向上や職場環境の改善などに貢献した者 ウ) 地場産業の振興に貢献した者 エ) 青少年団体の指導又は育成に貢献した者 ・団体 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で構成されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年の模範となる者。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○個人、団体の両面から幅広く該当者を発掘し、推薦してもらう必要がある。						
	改 善 策						
○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に理解してもらう。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。							

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の 目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ・補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体より補導員を推薦願い委嘱	事業年度	開 始		終 了		
			昭和50年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	197	173	153	256	98		
前年度の 課題	○子ども達のたまり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回するとともに引き続き施設管理者との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。						
当該年度の 目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の 実施状況	○補導員数 35名委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・実施回数22回・山部地区1回 延従事者81名(山部地区2名) ○補導員会議(兼研修会) ・6/5開催 39名出席 文化会館 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導...北海へそ祭り祭典補導(富良野市)6名(内旭川協議会より3名) 買物公園街頭補導(旭川市)2回延2名参加 ・列車添乗補導...2回実施(富良野～幾寅間)延従事者6名(旭川協議会より2名) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 7/8 1名 ・旭川地区広域補導連絡協議会実務担当者会議 2/20 1名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回するとともに引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。						
	改 善 策						
	○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の 目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化、スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	2,670	4,161	6,002	6,146	6,293		
前年度の課題	○引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室<会場:山部小学校> ○東山地区放課後子ども教室<会場:樹海小学校> ・登録児童数 64名 (H24年度 70名) ・登録児童数 39名 (H24年度 42名) ・開催日数 196日 (H24年度 196日) ・開催日数 177日 (H24年度 182日) ・延 4,504名出席 (H24年度 4,785名) ・延 4,926名出席 (H24年度 5,303名) ・教育活動サポーター 延392名 ・教育活動サポーター 延354名 ○布礼別地区放課後子ども教室 ○布部地区放課後子ども教室 <会場:布礼別小中学校> <会場:布部小中学校> H25年度新規開設 ・登録児童数 14名 (H24年度 15名) ・登録児童数 11名 ・開催日数 41日 (H24年度 40日) ・開催日数 193日 ・延 527名出席 (H24年度 486名) ・延 1,503名出席 ・教育活動サポーター 延43名 ・教育活動サポーター 延204名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証 ○児童の安全、安心な居場所づくりと心豊かで健やかに育まれる環境づくりに効果をあげている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	A	
今後 の 取 組 み	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。						
	改 善 策						
	○児童館が設置されていない未設置地区での開設について、引き続き検討する。 ○児童館、学童保育センターとの連携を検討する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	学社融合推進事業						
事業の 目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開 始		終 了		
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		497	322	441	356	243	
前年度の 課題	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへのより多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の 目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備						
事業の 実施状況	○富良野市学社融合推進委員会 ・推進委員 22名委嘱(教頭会より推薦の幹事2名含む) ・市内小中学校における実践事例136事例 ・学校支援ボランティア 活動回数延436回 活動人数延1,378名 ○学校支援ボランティアの登録数 285名(男性92名 女性193名)(H24年度 283名) ①家庭科補助8名 ②体育補助66名 ③読み聞かせ86名 ④農園手伝い6名 ⑤環境整備19名 ⑥自然科学・歴史8名 ⑦食育5名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化3名 ⑩学校行事支援6名 ⑪登下校時等の安全指導74名 ⑫その他40名 ※希望分野が複数の登録者あり						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへのより多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
	改 善 策						
	○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）						
事業の 目的・概要	平成23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から、①出会い・交流の場 ②まちの活性化 ③ボランティア活動 ④休日・余暇活動 に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。 このため、青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成24年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	—	38	48		
前年度の 課題	○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体の交流や課題解決に向けた学習機会の提供が必要である。 ○各種イベントやボランティア活動参加の理解を深める必要がある。						
当該年度の 目標	○青年の出会いと交流の場の開設(青年塾)を行い、自己実現を行うための課題解決に向けた学習・体験活動や広域的な交流を行う。						
事業の 実施状況	○活動実績（塾生39名 男性28名 女性11名） ・オリエンテーション 5/17 ・JUKE-Café 8回(カヌー・クニック、西岳登山、ハートメイトソーセージ、ヘイケボタル観察会、手づくり豆腐、ボルタリング & 草木染め、秋の紅葉アツキング、紅葉登山富良野西岳) ・塾生ミニ運動会 6/22 ・フラノビ・アモール運営協力（4回） 7/26～8/16 ・北海へそ祭り参加 7/28 ・ワインぶどうまつり出店協力 9/16 ・成人式運営協力 1/12 ・各種イベント実行委員会等会議出席 ・ふらのみつけ(ふらの再発見)1班8回 2班13回ふらの広報に記事の掲載（平成26年1月号～） ・全体会議 2月18日						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	B	B	
	効果度	—	—	—	B	B	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○塾生同士（年齢や業種を超えた）の出会いと交流の場の設定や活動に係る情報提供を行なった。 ○地域イベントへの参加と企画運営に携わり、活動の輪を拡充した。 ○塾生と沿線地域の青年との体験（学習）活動を通じた交流を行った。						
	今後 の 課題						
今後 の 取組	○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決に向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。						
	改 善 策						
	○定例会議等を通じた情報交換・情報共有を行い親睦を深めるとともに、他青年活動団体等との交流を行う。 ○各種学習機会の充実を図るとともに、企画事業への積極的な参加を促す。 ○地域活動への参加及び協力の推進。 ○様々なメディアを利用した活動内容に係る広報活動を積極的に行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する。 ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設。	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	572	1,030	896	829	729		
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題について引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の目標	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 (26講座 全65回 延910名参加) 中央公民館 ・子ども対象～ 3講座 全14回 延208名 ・成人対象～7講座 全10回 延117名 ・家庭教育～(親子対象) 2講座 全3回 延36名 ・女性対象講座～ 1講座 全11回 延132名 ・自主企画講座～ 3講座 全7回 延208名 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象～ 5講座 全10回 延99名 ・家庭教育(親子対象) 3講座 全3回 40名 東山公民館 ・成人対象～ 1講座 全4回 延41名 ・自主企画講座～ 1講座 全3回 延29名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域課題といった、市民の必要課題についての多様な学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富む講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	ことぶき大学運営事業							
事業の 目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開 始		終 了			
			昭和47年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25	
			1,011	951	808	1,012	982	
前年度の 課題	○新入生の確保に努めているが、入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析し引き続き学生の確保に努める必要がある。							
当該年度の 目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備							
事業の 実施状況	○講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行う ○3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 ○在籍者数 本科71名 大学院10名 研究科9名 計90名 ・富良野校～学習日数31日 本科45名 大学院9名 研究科7名 計61名（出席率90%） ・山部校 ～学習日数31日 本科19名 大学院 0名 研究科 0名 計19名（出席率92%） ・東山校 ～学習日数33日 本科 7名 大学院 1名 研究科 2名 計10名（出席率84%）							
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○富良野校・山部校・東山校3校合同学習を行い、学習内容の統一と充実を図っている。教科学習では、専門的な講師陣による多様な学習活動を行っている。 また、自主的な学習活動として、学年別研究を行っている。	
	効果度	B	B	B	B	B		
今後 の 取組	今 後 の 課 題							
	○新入生の確保に様々な取組を行っているが入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析するとともに、引き続き学生の確保に努める必要がある。							
	改 善 策							
	○ニーズを把握するために学生との話し合いを充実し、より魅力ある学習内容を検討する。 ○各メディアを利用した、ことぶき大学の活動の情報発信に努める。 ○公開学習日や学習内容の成果を発表する機会を通じ、ことぶき大学への理解を深めてもらう。							

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	富良野芸術文化事業協会事業						
事業の 目的・概要	多くの市民に優れた舞台芸術及び芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てる。	事業年度	開 始		終 了		
			平成15年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
1,000	900		1,000	1,000	1,600		
前年度の 課題	○様々なジャンルの優れた舞台芸術及び芸術作品を提供し、地域に根ざした芸術文化の向上を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○文化活動の指導者養成のための研修機会の推進						
事業の 実施状況	○鑑賞機会の提供 文化会館大ホール ・「北海道警察音楽隊ふれあいコンサート」 7/12 入場者700名 ・「札幌交響楽団富良野公演」 8/3 入場者493名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を提供するとともに、地域に根ざした芸術文化の振興を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○北海道文化財団や市内の文化団体等との連携や情報交換、ニーズの把握等を行いながら事業展開を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業						
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和48年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
1,260	1,052		910	1,050	900		
前年度の課題	○鑑賞教室終了後の児童生徒のアンケート調査と学校の希望により演目を決定している。地元演劇グループ(富良野GROUP)による演目の鑑賞機会を引き続き検討する必要がある。						
当該年度の目標	○児童・生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を設け、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。						
事業の実施状況	○舞台芸術鑑賞(小・中学生) ・劇「子象物語」 8/22・23開催 来場者延 1,753名(児童・生徒、教員、父母)文化会館大ホール 公演団体 劇団トマト座						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○優れた芸術に触れる機会を児童生徒に提供し、豊かな感性を育み、芸術文化の意識高揚に向け、学校と連携を図りながら事業を実施している。						
	今 後 の 課 題						
今後の取り組み	○鑑賞教室終了後に児童生徒に対するアンケート調査と学校の希望等を参考にしながら演目の決定をしているが、今後は地元演劇グループ(富良野GROUP)による鑑賞機会も含め、演目を決定する必要がある。						
	改 善 策						
	○演目について情報収集等を行い、地元演劇グループによる公演も含めた協議を学校側と行い、鑑賞機会・内容の充実を図る。 H26年度 富良野塾OBユニット 演目:笑劇「ようこそパントマイムの世界へ」 9月1日(小学生:午前/午後) 9月2日(中学生:午前)						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	市民総合文化祭事業						
事業の目的・概要	○郷土芸術文化の成果を広く市民に発表する場を提供するとともに、一人一文化を奨励し文化意識の高揚に努め、文化団体の交流並びに文化の振興を図る。 ○富良野会場、布部会場、山部会場、東山会場の4会場で開催	事業年度	開 始		終 了		
			昭和41年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	471	472	462	465	311		
前年度の課題	○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
当該年度の目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進						
事業の実施状況	○第48回市民総合文化祭 ・富良野会場 11/2～4 延来場者3,100名 文化会館 作品展示 1,021点 芸能発表462名 ・布部会場 10/26 延来場者80名 布部会館 作品展示 200点 芸能発表50名 ・山部会場 11/1～4 延来場者1,337名 生涯学習センター・山部福祉センター 作品展示 1,212点 芸能発表49名 ・東山会場 11/2～3 延来場者550名 東山公民館 作品展示 432点 芸能発表137名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
	改 善 策						
	○菊づくり講習会を開催し、菊づくりへの理解を深めるとともに愛好者の増加を図る。 ○若い世代の市民が芸術文化に親しむ機会を拡充する。 ○生涯学習の成果を発表する場であり、地域の芸術文化に親しむ機会であることを広く市民に周知し、芸能発表・作品展示とともに多くの方が参加されるよう努めるとともに、市民の文化団体活動への理解を深める機会とする。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの演劇祭事業						
事業の 目的・概要	開庁100年を機に次代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ『演劇』を継続して実施している。「演劇のまち富良野」をめざし、市民、小中学生による演劇の発表の場として開催する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		1,000	2,000	1,400	1,900	1,600	
前年度の 課題	○希望する学校が参加しているが、数多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
当該年度の 目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○演劇祭を通し、文化芸術に親しむ心と豊かな感性を育てる						
事業の 実施状況	○第11回ふらの演劇祭 10/12 来場者 295名 ・布部小学校「木が危機でキーキー」 出演11名 ・中富良野中学校3年生「六つの手紙」 出演28名 ・麓郷・布礼別中学校「ばにつくトレイン！」 出演11名 10/13 来場者 275名 ・扇山小学校4年生「生まれる！」 出演48名 ・東小学校4年生「小道の神さま」 出演45名 10/14 来場者281名 ・市民創作劇「総理の犬」						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○希望する学校が参加しているが、数多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
	改 善 策						
	○今後も継続して「演劇のまちふらの」をめざし、継続して事業推進・振興を図る。 ○演劇指導を行っているふらの塾OBと小中学校教諭との連携を図りながら事業推進を図る。 ○演劇指導に係る事業時間の確保について、学校側で検討してもらう。 ○事業PRの充実を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育				
事務事業名	舞台塾ふらの事業						
事業の 目的・概要	舞台芸術の視野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、近隣市町村の関係団体と連携し、「舞台塾ふらの事業」を開催する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成15年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
1,500	1,500		1,500	1,500	1,500		
前年度の 課題	○北海道の負担金が予算の半額をH22年度迄占めていたが、年々負担金額削減傾向にある。 道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。						
当該年度の 目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進 ○文化活動の指導者養成のための研修機会の推進						
事業の 実施状況	○演劇創造活動事業 ・富良野塾OB舞台創作事業 10/14～10/25 参加者数延112名 富良野演劇工場 ○演劇に親しむ機会づくり事業 ・富良野塾OB巡回公演2013「嫁に来ないかあ！」 10/26～11/8 来場者数延1,157名 上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村 ○時代を担う人づくり事業 ・ジャグナルJrコンサートとワークショップ 7/7 占冠コミュニティプラザ 90名(小学生～) ジンバブエの子ども達により伝統音楽・ダンスの披露をしてもらい、異国の伝統文化に直接触れる機会を設けた。また、ジンバブエの生活や自然、歴史等について紹介する。 ・演劇リハビリテーション 9/19 寿光園 60名(幼稚園児) ・舞台芸術と演劇ワークショップ 3/11～12 富良野演劇工場 参加人数延40名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○北海道の負担金が年々削減傾向にあり、北海道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。						
	改 善 策						
	○各種補助金の活用や事業内容の検討を行うとともに、自主財源(チケット収入)の確保の充実を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ環境の整備						
事業の 目的・概要	いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる環境の整備を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		6,544	5,612	4,882	4,104	4,807	
前年度の 課題	○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。 ○引き続き、学校屋内運動場を整備し、学校施設開放事業の推進を図る。						
当該年度の 目標	○四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供 ○さまざまな媒体を活用した効果的なスポーツ情報の提供						
事業の 実施状況	1) 市民水泳記録会(富良野水泳協会委託事業) 12月1日開催 会場「ふらっと」 78名参加(女子45・男子33) 【園児9・小学生62・中学生1・一般6】 2) 学校施設開放事業 市内小中学校11校開放(東小・麓郷小中学校屋体改築工事のため開放中止) 開放日 延1,342日、利用者数 延20,384名、利用団体数 34団体 3) NPO法人ふらの体育協会補助 ふらの体育協会が主催するスポーツ活動等の支援(体育協会自主事業) 4) 少年野球国際交流事業 海外の少年野球チームと野球を通じた国際交流及び野球技術の向上を図る。 (7月28日～8月1日実施、台湾高雄市立大仁国民中学校19名、 地元中学校4チーム 東・西・山部・(樹海+麓郷+占冠+トマム) 合計131名参加) 5) 開庁110年記念夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会(臨時) 富良野市開庁110年記念の節目に、ふらの体育協会及び地域の体育振興会等と連携し、市民の健康づくりの促進を図る。(7月25日実施、場所:富良野陸上競技場、参加者1,400名)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証 ○計画通り実践が進んでおり、NPO法人ふらの体育協会のスポーツ推進活動は、広く市民に浸透しつつあり、今後益々主体的な活動が期待されている。 ○学校屋内運動場の整備が進み、充実した学校施設開放が推進されている。						
	今 後 の 課 題 ○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。						
	改 善 策 ○生涯スポーツの振興をNPO法人ふらの体育協会と連携強化し、いつでも、どこでも、だれでもが活動できる体制を図る。 ○小中高校生のスポーツ活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けたスポーツ環境整備を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	人材及び団体育成						
事業の 目的・概要	各スポーツ団体・サークルの活性化を図るために指導者等の人材育成と各団体の育成を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		2,578	828	828	826	951	
前年度の 課題	○富良野市スポーツ推進委員とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
当該年度の 目標	○生涯スポーツ振興のためのスポーツ指導者及び団体の育成 ○地域づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの育成支援						
事業の 実施状況	1) スポーツ推進委員活動事業費 市民の健康体力づくりを目的にスポーツ推進委員を各地区に配置し、生涯スポーツの推進を図る。軽スポーツ指導普及活動(フロアーカーリング・キンボール)や各種競技会の協力支援を実施。(へそマラソン・障がい者スポーツ大会・全国高校選抜スキー大会・小学生スパードッジボール大会等) 2) 山部体育振興会運営補助 各種スポーツ大会の実施・小学校マラソン大会実施等 3) 東山体育振興会運営補助 各種スポーツ大会の実施・樹海駅伝大会実施等 4) 麓郷スポーツクラブ運営補助 各種スポーツ大会の実施・クロスカントリースキー講習会等の実施 5) 総合型地域スポーツクラブ活動支援 麓郷スポーツクラブ(H21年度設立)、北の峰スポーツクラブ「ふらぼ」(H22年度設立)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後 の 取組	達成度・効果度の検証						
	○地域スポーツ振興の促進を目的にスポーツ推進委員を配置し、軽スポーツの指導普及活動を推進している。また、山部、東山、麓郷地区毎で実施されている各種スポーツ大会が活発に開催されており、市民の体力増進が図られている。						
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○富良野市スポーツ推進委員とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○各種団体や各地域の主体的なスポーツ活動を活性化するため、NPO法人ふらの体育協会と富良野市スポーツ推進委員と連携をとりつつ、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる体制づくりを推進する。 ○総合型地域スポーツクラブ及び地域体育振興会等の育成充実を図るとともに、リーダー及び指導者の育成を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ施設の整備及び管理運営						
事業の 目的・概要	指定管理者等との連携によるスポーツ施設管理運営を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		59,479	71,953	68,394	65,238	63,091	
前年度の 課 題	○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市とNPO法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。 ○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり全道・全国大会へと出場しているが、屋外河川スポーツ施設(ラグビー場、サッカー場等)の利用頻度から施設整備の充実を図る必要がある。						
当該年度の 目 標	○市民ニーズに対応するための民間活力の活用と各種団体との連携による事業の展開						
事業の 実 施 状 況	1) 体育施設管理運営 富良野市スポーツ施設指定管理(NPO法人ふらの体育協会) 屋外水泳プール管理運営(山部・東山) クロスカントリーコース整備(朝日ヶ丘公園広場) 2) 体育施設維持管理整備事業 屋外スポーツ施設管理用 目土散布機(トップドレッサー)購入 陸上競技場メインスタンド非常用放送受信機更新 スポーツセンター高圧受電設備変圧器台及び予備発電バッテリー充電器修繕 スポーツセンター2階通路床補修 屋外水泳プール躯体修繕 3) 有料パークゴルフ場運営管理 ・金満緑地公園パークゴルフ場指定管理(㈱シー・エス・ティー富良野営業所) ・東山パークゴルフ場指定管理(公益社団法人富良野市シルバー人材センター) ・山部自然公園太陽の里パークゴルフ場指定管理(山部商業協同組合)※所管:山部支所						
評 価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今 後 の 取 組 み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証						
	○各施設の指定管理者により、施設利用に伴う安全性や施設運営の推進、更に施設利用者、市民サービスの向上が図られている。						
	今 後 の 課 題 ○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市と各指定管理者(NPO法人ふらの体育協会、有料パークゴルフ場指定管理者)と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。 ○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場している中、競技力向上に向けた屋外スポーツ施設の施設整備の充実を図る必要がある。 改 善 策 ○体育施設の計画的な施設整備を図るため、NPO法人ふらの体育協会や各施設の指定管理者と連携を図り推進する。 ○第5次富良野市総合計画におけるスポーツ施設整備事業の推進を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	競技スポーツの育成						
事業の目的・概要	幼児から高齢者まで自ら楽しむ「実践スポーツ」、見て楽しむ「応援するスポーツ」、ボランティアで楽しむ「協力するスポーツ」を实践しそれぞれのライフステージにおいて競技スポーツの育成振興を図る。	事業年度	開 始		終 了		
					継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		10,851	8,800	6,000	5,624	4,919	
前年度の課題	○競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進						
当該年度の目標	○四季を通じて、いつでも・どこでも・だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供						
事業の実施状況	1) 道知事・上川教育局長・市長杯第42回麓郷クロスカントリー大会 平成26年2月9日(日) 麓郷クロスカントリーコース 参加者168名 2) 第26回セルジュラング杯小学生ジャイアントスラローム競技大会 平成26年2月22日(土) 富良野スキー場北の峰ゾーン 参加者67名 3) 第15回富良野市長杯スーパージャイアントスラローム大会 平成26年3月12日(水)～13日(木) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者202名 4) ジュニアスノーフェスティバル 平成26年2月16日(日) 空知川河川運動広場 参加者59名 5) 第26回全国高等学校選抜スキー大会(アルペン種目) 平成26年3月13日(木)～16日(日) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者238名(延674名) 6) 第59回全日本総合男子ソフトボール選手権大会北海道予選会(臨時) 平成25年7月20日(土) 富良野市宮若葉球場 男子3チーム(選手・監督等59名)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○富良野市の地域特性を活かした大会の開催と誘致により継続的な大会開催を実施しており、地域活性化も図られている。特に全国高等学校選抜スキー大会の開催は、富良野市開催10回目であり、「スキーのまちふらの」を実現している。						
	今 後 の 課 題 ○競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進						
今後取り組み	改 善 策						
	○各種公認競技大会開催に伴う公認競技場の公認継続。 ○各種競技会開催に伴い、NPO法人ふらの体育協会の体制強化。(加盟競技団体の協力)						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	アスリート育成派遣事業						
事業の目的・概要	子ども達のスポーツ活動が盛んとなるに従い、全道、全国、世界（国際）大会へ出場する機会が増え、市民に夢と感動を与えるとともに本市の大きな財産となっている。このため、将来のアスリートを育成するために大会派遣費の一部を補助する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成23年度		継続		
		事業費（決算） （単位：千円）	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	3,628	2,199	3,036		
前年度の課題	○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的としたアスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。						
当該年度の目標	○全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し、派遣費の一部を補助し、将来のアスリートを育成する。						
事業の実施状況	○全道大会 6 件 ①北海道卓球選手権大会 ②ジュニアオリンピック陸上競技大会北海道選手選考会 ③道新杯北海道中学選抜卓球大会（団体戦）兼全国中学選抜予選会 ④全日本少年軟式野球北海道大会 ⑤ファミリーマートカップ 全日本バレーボール小学生大会北北海道大会 ⑥全国ミニバスケットボール大会北海道地区予選会 ○全国大会 15 件 ①全国高等学校少林寺拳法大会（2 件） ②全国中学生少林寺拳法大会 ③全国高等学校少林寺拳法選抜大会 ④全国小学生バトントロニック選手権大会 ⑤サントリーカップ 全国小学生タグラグビー選手権大会 ⑥JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニアスキー選手権（ノルディック種目）（2 件） ⑦JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ジュニアスキー選手権（アルペン種目） ⑧全日本スキー選手権（クロスカントリー競技） ⑨全日本スキー選手権（アルペン競技） ⑩全日本ジュニアスキー選手権（アルペン競技） ⑪全国小学生ドッジボール選手権全国大会 ⑫FIS ファーイーストカップ ジャパンシリーズ 2014 ⑬少林寺拳法世界大会 in 大阪 ○世界（国際）大会 2 件 ①FIS CHILDREN ウィスラーカップ2013 ②FIS CHILDREN Ingemartrofen2013（インゲマル トロフィー2013）						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	A	A	A	
	効果度	—	—	A	A	A	
今後組みの取	達成度・効果度の検証						
	○各種競技スポーツにおいて、全道、全国、世界（国際）大会等に出場する選手の増加がみられ、今後の競技力向上が期待される。						
	今 後 の 課 題 ○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的としたアスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。 改 善 策 ○小中高校生のスポーツ競技活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けた競技スポーツの環境整備を図る。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課、学校教育課				
事務事業名	子どもスキー技術向上支援事業						
事業の目的・概要	冬期間における小中学生の体力向上、スキー技術向上のため、富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付するとともに、小中学校のスキー授業にインストラクターを派遣し、スキー技術の向上を支援する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成23年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	14,732	7,304	7,320	
前年度の課題	○スキー授業インストラクター派遣においてインストラクター単独による指導希望もあり、今後、指導体制、指導方法等について検討する必要がある。 ○全国体力運動能力調査結果から「長座体前屈」がやや劣っており、スキー授業等を通じて柔軟性を高め、基礎体力をつける必要がある。						
当該年度の目標	○冬期間の小中学生の体力向上、スキー技術の向上を図る。						
事業の実施状況	○富良野スキー場リフト搭乗無料券配付 ・配付～中学生 691名（対象者696名、配付率99.3%） ※H24年度より小学生のリフト無料化に伴い、中学生に対し富良野スキー場リフト搭乗無料券を配布する。 ○スキー授業インストラクター派遣（小中学校延70回派遣） ・富良野小14回、扇山小12回、東小13回、鳥沼小2回、布部小中3回、山部小3回、樹海小2回 麓郷小中2回、山部中7回、布礼別小中2回、西中6回、東中2回、樹海中2回 ・派遣インストラクター人数～延175名						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	A	A	A	
	効果度	—	—	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
	○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付することにより、小中学生のスキー場利用が大幅に増加し冬期間における体力増進等の向上が図られた。 また、スキー授業へのインストラクター派遣により教員の技術向上につながり、レベルに合わせた少人数指導や指導員の増による危機管理面での充実が図られた						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○小中学生に富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。						
	改 善 策						
	○冬期間における小中学生の体力向上とスキー技術向上を目的とした当事業を今後も継続して実施する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	歴史的建造物魅力再発見事業（富良野市歴史的建造物調査事業）						
事業の目的・概要	○文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」採択により、市費による平成23年度からの富良野市歴史的建造物調査事業費の振替事業。 ○市内の明治末期から昭和初期の築50年以上経過した歴史的建築物を調査し、その実態を把握・研究することで文化財の基礎資料とするとともに普及啓発事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成26年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	—	—	(国費) 1,918		
前年度の課題	○歴史的建造物第一次調査でリストアップした建物の中から90件程度を抽出し、写真撮影、図面作製、聞き取り調査などの詳細調査を実施し、基礎的な記録保存に努めなければならない。						
当該年度の目標	○実測調査、図面作製、報告書の発刊						
事業の実施状況	○富良野市歴史的建造物調査事業として、平成23年度は第一次調査で約200件をリストアップ。平成24年度は沿線建築士会および道内研究者の指導協力のもと、その中から90件を抽出し、第二次調査（聞き取り調査・写真撮影・台帳整理等）や見学研修会を開催。 ○市内の歴史・文化・産業を物語る歴史的建造物は年々消滅しており、文化財的な評価を含めて記録保存のための基礎的な調査が急務である。 ○北海道建築士会富良野支部の協力による実測調査と図面作製（島田邸・小玉邸・渡部医院・山崎家倉庫・JR山部駅危険品庫1号・嶋田邸・宇野金物店） ○北海道開拓記念館小林孝二学芸員の指導による報告書執筆、発刊（A4判158頁500部） ○「富良野の歴史的建物」の北海道新聞ふらの版紙上への連載や、博物館広報紙・HP上での紹介。 ○高齢者大学での講演 ○「ふらの町なみ写真展」の開催（生涯学習センター・中心街活性化センターふらっと）						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	—	A	
	効果度	—	—	—	—	A	
今後の取り組み	達成度・効果度の検証						
	○本調査により、市内の歴史的建造物についての歴史的背景や近代建築のあゆみについて基礎的情報を整理することができた。 ○調査活動や普及啓発活動をとおして、所有者、建築関係者、一般市民の古建築や町なみの歴史に対する興味関心の高まりが感じられた。						
	今 後 の 課 題 ○市民の関心を高めることはできたが、歴史的建造物を今後のまちづくりに活用する機運の醸成には至っていない。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○市民はもとより本市を訪れる観光客に対しても、学習面、観光面で活用される資源として情報発信やPRをする必要がある。 ○ガイドマップの作成・HPでの紹介・講演会や見学会の開催・観光関連ガイドの人材育成への協力・展示会の開催・登録有形文化財への登録の検討						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		1,142	1,168	1,220	1,191	1,190	
前年度の課題	○市民生活・地域課題に関連したテーマや、市民の学習ニーズに応じた博物館活動を積極的に展開する必要がある。 ○美術アート系の講座は児童・生徒の参加が多く好評であり、その学習機会と内容の充実が求められる。						
当該年度の目標	○博物館活動（教育・普及）の推進 ○専門的な知識を有する人材の確保と養成						
事業の実施状況	○特別展・企画展等の開催（生涯学習センター） ・第24回特別展「中島宏章写真展 黄昏ドラマチック」6/22～8/18 6,400名 ・第25回特別展「ふらの町なみ写真展」（学習センター）9/7～9/29 1,560名 （ふらっと）10/6～10/20 記帳者500名 ・富良野アートギャラリー「人+展」 4/13～6/9 1,308名 ・富良野アートギャラリー「盛本学史展～ブリーフ戦士と文学的幻想絵画」 10/5～1/12 1,495名 ○ワークショップの開催（「アートを楽しもう！」4回 6/1・7/6・11/16・1/9 66名） ○小中高等学校等の学習支援・出前講座（山部小・鳥沼小・樹海小・布礼別小・ことぶき大学・富良野市教育研究会社会科班・ふらのスキーホスト研修会・富良野ロータリークラブ） ○インターンシップ受入（富良野高校1名） ○博物館資料貸出（考古資料・写真展パネル～旭川兵村記念館・オホーツクミュージアムえさし・ホテルナトゥールヴァルト富良野へ）						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	B	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、博物館の魅力を発信していく必要がある。 ○美術アート系の講座は児童生徒、また一般参加者にも引き続き好評であるので、その学習内容の工夫・多様化を図り、新たな参加者の拡大を目指していく必要がある。						
	改 善 策						
	○ふらの市民講座との連携を深める。 ○時代のニーズ、市民ニーズを汲み取った事業とともに、市民に伝えるべき普遍的なテーマも視野に事業展開を図る。 ○事業の事前PRはもとより、終了後の開催報告としてHP、広報紙や展示等で発信する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和51年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		博物館活動推進事業に包含					
前年度の課題	○鳥沼公園の湿地性植物やヘイケボタル、絶滅危惧種ヒメギフチョウなどの希少種の保護活動や、在来種を害する特定外来種オオハンゴンソウの除去活動などをおして、学校・地域で郷土の自然や環境に理解を深める必要がある。						
当該年度の目標	○自然とふれあう体験学習・環境学習の推進 ○専門的な知識を有する人材の確保と養成 ○身近な自然環境の調査をおして郷土愛の醸成と自然保護思想の啓蒙を図る。						
事業の実施状況	○自然観察会の開催 「富良野の自然に親しむ集い」4回 参加者145名 ・5/12春の草花と野鳥観察 ・7/20ヘイケボタル観察会 ・8/12ペルセウス座流星群と夏の星座 ・10/5キノコ観察会 ○自然講演会の開催 「コウモリの不思議」 ○ふらの森の教室の開設 展示、自然観察ガイド、木工クラフト ○遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察路の活用と整備(上川南部森林管理署との協定) ○小中学校等の環境教育への指導・協力 (鳥沼小2回、山部小7回、樹海小4回、布礼別小2回) ○自然環境保全活動 「オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼」、「鳥沼公園ハンノキの林植樹」、「山川草木を育てる集い植樹祭(清水山)」、「アキグミ観察会(空知川河川敷)」、「ヒメギフチョウ生息地」(布礼別神社)の状況確認 ○調査プログラムの実施 「鳥沼・生き物調査隊」3回、「エゾナキウサギ生息分布調査(芦別岳)」中止、「太陽の里ホテルの里づくり・ヘイケボタル生息調査」6回)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	B	B	B	B	A	
	効果度	B	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
○郷土の身近な自然や森林の中で自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に大いに寄与している。							
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の希少な自然について、その現状を把握し将来的な保全・活用を図るため継続的に活動に取り組む必要がある。						
	改 善 策						
○地域の希少な生物や自然環境を将来的に保全するため、HP・広報紙・ガイドブック・展示・講演会等の場において、調査で得られたデータを公開・活用していく。 ○自然観察や体験の楽しさを実感できるような事業展開を図る。							

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	山部菊の会補助金						
事業の目的・概要	○「山部菊花展」開催をはじめとする、山部菊の会活動に対する補助。 ○会は昭和56年3月発足以来、品種改良等の研究研修見学会、小学生や市民を対象とした菊づくり指導等の活動を展開している。 会員10名 ○後継者の育成を目指すとともに、地域に根付いた貴重な伝統文化としての「山部菊花展」の継承・発展を図り地域の活性化に資する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成29年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
	—	—	—	—	300		
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○菊づくり体験講座の開催による、日本古来の伝統文化の啓蒙普及と後継者の育成確保 ○菊花展の安定的な継続開催 ○菊の会活動の支援						
事業の実施状況	○山部総合文化祭「第33回山部菊花展」の開催（11/1・2・3 出展数644点 ※前年640点） ○ふらの市民講座「菊づくり体験講座」の開催 ダルマ、福助づくり 参加者～一般1名 7～10月まで4回（6/20・7/19・8/10・9/20、他成長にあわせて随時指導） ○山部小学校福助づくり指導 ○会員の青田見学会の開催 ○視察研修会 ○菊花資材の取りまとめ・配布 ○菊苗の配布						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	—	—	—	—	B	
	効果度	—	—	—	—	B	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○ほぼ例年どおりの事業を実施することができた。 ○地域の文化活動の一翼を担っている。 ○しかし、菊づくり体験講座の受講者はわずかであり会員も減少傾向（H24度12名・H25度10名）、若手後継者の不在など、期待する効果がうすい。						
	今後取り組み						
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承 ○生活様式や趣味の多様化による、菊づくりに対する興味の希薄さ ○栽培管理の手間の多さによる敬遠、園芸愛好家にも取り組みの広がりがみられない。						
今後取り組み	改 善 策						
	○地域の活性化と生涯学習の取り組みとして、引き続き活動の継続を支援する。 ○市民が親しみやすい菊づくり講座の工夫。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書館運営管理事業						
事業の目的・概要	【目的】 図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供 【概要】 ○図書館の運営 開館日・時間 火～金：10時～18時 土・日：9時～17時 ○利用者団体等への施設貸出 ○図書館利用促進のためのイベント主催 ○インターネット端末の設置（2台） ○図書館情報の提供	事業年度	開 始	終 了			
			昭和47年度	継続			
		事業費(決算) (単位：千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		20,421	21,634	22,630	20,896	22,198	
前年度の課題	○図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○情報化社会に対応する情報発信機能の充実 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ○ICT技術の活用による図書館情報提供の充実						
当該年度の目標	○図書館利用サークル及び読書推進ボランティアの活動状況について、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館ボランティア制度の充実を図る。 ○計画的な施設修繕及び利用目的に適合した改修による快適な環境整備を行う。 ○図書館情報システムの機能を利用した、新サービスの提供。						
事業の実施状況	○図書館の運営 開館日数：280日 利用登録者数：13,976名 貸出人数：33,086名 貸出冊数：159,726冊 図書館利用団体会議 2回 図書館ボランティア 登録者30名 ○利用状況 多目的ホール及びサークル室：306回延べ4,574名 展示ホール：9回76日1,439名 ○図書館まつり 期間：10月5～26日 来場者数：9,873名 ○消火器更新、エレベータ機能維持工事、多目的ホール冷房機修理 ○インターネット予約開始（7月から） 86名登録						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○図書館利用サークル、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展 ○情報化社会に対応する情報発信機能の充実 ○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営 ○ICT技術の活用による図書館情報提供の充実						
	改 善 策						
	○図書館利用サークル及び読書推進ボランティアの活動状況について、チラシやラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。 ○図書館ボランティア制度の登録方法の見直しを図る。 ○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業						
事業の目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 ○視聴覚ライブラリー資料の収集 （富良野地区視聴覚教育協議会）	事業年度	開 始	終 了			
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		6,113	6,300	6,035	6,582	5,588	
前年度の課題	○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 ○視聴覚資料全般に関する検討						
当該年度の目標	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○富良野地区視聴覚教育協議会を富良野地区広域教育圏振興協議会に整理統合し、図書館連携専門部会において、事業の見直しを図る。						
事業の実施状況	○購入書籍：一般書2,273冊、児童書1,108冊、雑誌1,029冊、新聞9紙 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○視聴覚教材購入＝DVDソフト78本 ○富良野地区視聴覚教育協議会との整理統合及び視聴覚ライブラリー事業について、富良野地区広域教育圏振興協議会の図書専門部会での検討：会議開催5回						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証 ○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○視聴覚資料の利用数が増加した。 （H24：2,308本からH25：2,548本へ）
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	B	B	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 ○視聴覚ライブラリー事業の効率化						
	改 善 策						
	○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○富良野地区視聴覚教育協議会を廃止し、富良野地区広域教育圏振興協議会が事務を継承する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供 【概要】 ○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出 ○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出	事業年度	開 始		終 了		
			昭和47年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
		—	—	—	—	—	
前年度の課題	○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供が課題である。						
当該年度の目標	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						
事業の実施状況	○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供 ○リクエスト数: 3,323冊 ○相互貸借: 他図書館からの借受541冊 他図書館への貸出321冊 ○録音図書: 33本購入(所蔵数378本) ○大活字本40冊購入(所蔵数643冊)						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	達成度・効果度の検証						
	○市民一人当たりの貸出冊数は、6.35冊と高い水準にあり、利用登録者数も13,976人と増加している。						
	今 後 の 課 題 ○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。 ○利用者が求める情報を図書や雑誌、電子資料やWebなどから探し出す「レファレンスサービス」の一層の充実。						
今後取り組み	改 善 策						
	○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。 ○最新型MARC(コンピュータ処理可能な書誌情報)を導入し、情報提供サービスを充実させる。 ○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	安全安心な学校給食の提供					
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図るとともに、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を促進し、食中毒の発生や異物混入の防止を図り、安全で安心な学校給食の提供に努めるとともに、給食の安定した供給を図る。	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24
		253,840	252,829	250,611	241,157	266,326
前年度の課題	○施設は建設から15年目を迎え、各所に経年劣化が見られることから、今後とも大型機械及び厨房調理機器、施設改修等の計画的な設備、機器の更新が必要である。(継続)					
当該年度の目標	○安全・安心な学校給食の推進 ○安定した給食の供給					
事業の実施状況	○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校17校、中学校10校に年間195回を基準として米飯週3回、パン・麺週1回の給食を提供 ○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食の運営 ○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催) ○学校試食会での保護者アンケートの実施 ○調理員を対象に安全衛生管理指導の実施(年3回～学期開始時、講師:栄養教諭) ○沿線調理員及び食品納入業者と合同の衛生管理研修会実施(7/26、講師:富良野保健所) ○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表 ○施設設備及び調理機器等の整備 ・球根皮剥室増築工事 13,765,500円 ・給食センター屋上防水改修工事 3,822,000円 ・給食配送用コンテナ更新 2台 960,000円 ・高速度ミキサー更新 381,000円 ・厨房床補修 410,970円 ・破碎機劣化部品交換修理 2,205,000円 ○学校給食管理(栄養計算)システム導入 672,000円					
評価		H21	H22	H23	H24	H25
	達成度	B	B	B	B	A
	効果度	A	A	A	A	A
今後の取り組み	達成度・効果度の検証					
	○球根皮剥室の増築で土付き野菜の処理が可能となり、衛生面の担保と経費節減につながる。 ○厨房調理機器、給食供給用備品の更新及び施設改修等に加え、給食管理システム導入により、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られる。					
	今 後 の 課 題 ○施設は各所に経年劣化が見られることから、今後とも継続して大型機械及び厨房調理機器、施設改修等の計画的な設備、機器の更新が必要である。 改 善 策 ○設備、機器の計画的な更新を進め、安定した給食の供給を図る。					

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施						
事業の 目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)		H21	H22	H23	H24
		—	—	—	—	—	
前年度の 課題	○地場産野菜の収穫時期に合わせ10月上旬の実施予定だが、時期的に学校行事等も多く、実施日の確保が難しい。						
当該年度の 目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 ○地産地消の推進						
事業の 実施状況	○10月1日、9日、17日、25日実施(4日) ○沿線企業、農園等の協力により地元食材を確保 ○学校農園野菜の活用 ○「給食だより」による地産地消の啓発 ○ふるさと給食特別号「～絆～ I L O V E ふらの」発行 ○終了後アンケートの実施						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後 の 取組	今 後 の 課 題						
	○学校行事等を考慮し、これまでは10月に実施してきたが、多くの地場産野菜の収穫時期が5月から10月上旬であり、必要量も容易に確保できることから開催時期の精査が必要。						
	改 善 策						
	○協力いただける農家の情報を収集し、児童生徒が地域農業への理解を深め地産地消の意義を学ぶ機会として充実を図り、魅力ある「ふるさと給食」を実施する。						

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター			
事務事業名	食に関する指導の推進					
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 (配置校・未配置校)	事業年度	開 始		終 了	
					継続	
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24
	—	—	—	—	—	
前年度の課題	○給食センター栄養士と学校栄養教諭の二つの役割は、業務が過重負担になっている。 ○配置校は全教室での食育指導を目標に行ってきたが、未配置校への食の指導はなかなか進められず、指導体制の強化が必要。 ○食育は、食べ残しゼロ運動も含めて長期にわたる指導が必要であり、養護教諭等との連携を図りながら、今後も継続して指導を推進することが必要。					
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○「食べ残しゼロ運動」の推進					
事業の実施状況	○2名の栄養教諭による食の指導 ・配置校 富良野小学校 ～ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ～ 家庭科の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 25校の内8校で指導 (扇山小、東小、布部小、布部中、布礼別小、布礼別中、西中小、占冠中央小) ○社会見学における食の指導(中富良野小) ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導ポイント作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○保護者向けの食の講話実施(山部小、布礼別小中)					
評価		H21	H22	H23	H24	H25
	達成度	B	B	B	B	B
	効果度	B	A	A	A	A
今後の取り組み	達成度・効果度の検証					
	○未配置校の食の指導については、指導依頼があった学校すべてに対応し、児童生徒だけでなく保護者への指導も行った。 ○各学校の養護教諭と連携し、給食指導ポイントの活用により食の指導の推進につながった。					
	今 後 の 課 題 ○栄養教諭による食育指導は、配置校は全教室で行ったものの未配置校は指導依頼を受けた8校のみに留まっている。区域も広く学校数も多いことから効果的に指導が行える体制づくりが必要。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。					
今後の取り組み	改 善 策					
	○道教委に、栄養教諭の増員配置を引き続き要請していく。 ○学級担任、養護教諭、給食担当職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○栄養教諭未配置校の食に関する指導は、学校からの指導依頼には随時対応していく。					

平成25年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																						
事務事業名	学校給食費の徴収																																								
事業の目的・概要	給食費の徴収については、「児童手当」から天引きできる仕組みを活用するなど、給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開 始		終 了																																				
			継続																																						
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25																																		
		—	—	—	—	—																																			
前年度の課題	○給食費の収納率は、ここ数年99%を超える高い水準を維持している。未納となる世帯への回収については、引き続き学校と連携を図り、児童手当からの天引き徴収等滞納の未然防止に努める必要がある。																																								
当該年度の目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮																																								
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>調定額(円)</th><th>収入済額(円)</th><th>未収入額(円)</th><th>収納率(%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度給食費</td><td>149,362,068</td><td>149,070,157</td><td>291,911</td><td>99.80</td></tr> <tr> <td rowspan="3">内 訳</td><td>富良野</td><td>116,165,933</td><td>116,165,933</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>中富良野</td><td>27,257,492</td><td>26,965,581</td><td>291,911</td><td>98.93</td></tr> <tr> <td>占冠</td><td>5,938,643</td><td>5,938,643</td><td>0</td><td>100.00</td></tr> <tr> <td>過年度給食費</td><td>706,206</td><td>200,196</td><td>506,010</td><td>28.35</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>150,068,274</td><td>149,270,353</td><td>797,921</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>					区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	25年度給食費	149,362,068	149,070,157	291,911	99.80	内 訳	富良野	116,165,933	116,165,933	0	100.00	中富良野	27,257,492	26,965,581	291,911	98.93	占冠	5,938,643	5,938,643	0	100.00	過年度給食費	706,206	200,196	506,010	28.35	合 計	150,068,274	149,270,353	797,921	—
	区 分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																				
25年度給食費	149,362,068	149,070,157	291,911	99.80																																					
内 訳	富良野	116,165,933	116,165,933	0	100.00																																				
	中富良野	27,257,492	26,965,581	291,911	98.93																																				
	占冠	5,938,643	5,938,643	0	100.00																																				
過年度給食費	706,206	200,196	506,010	28.35																																					
合 計	150,068,274	149,270,353	797,921	—																																					
	「児童手当」からの天引き申出額 1件 10,904円																																								
評価		H21	H22	H23	H24	H25																																			
	達成度	—	—	A	A	A																																			
	効果度	—	—	A	A	A																																			
今後取り組み	達 成 度 ・ 効 果 度 の 検 証																																								
	○学校と連携を図ることで未納防止につながり、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分については、電話、文書での督促に加え、夜間に滞納家庭を訪問し、分割納付を認めるなど徴収に努めた。																																								
	今 後 の 課 題																																								
	○高い収納率は維持しているが、未納世帯への回収については、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、児童手当からの天引き徴収等滞納の未然防止に努める必要がある。																																								
	改 善 策																																								
	○学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、家庭状況を把握するとともに「児童手当」からの天引き徴収に理解を求め、滞納の未然防止に努める。																																								

IV 平成25年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめ、委員の意見に対し改善策を示した方が良いと思われる項目に対しては、教育委員会の改善方策を記載する。

なお、自己評価値は、評価基準を「4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観 点	自己評価【平均】 ()は前年度
-----	---------------------

《評価領域：組織運営等の状況》 ＜項目：学校の組織運営の状況＞		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3. 9 (3.8)
各学校での取組状況	・職員会議は学校教育法施行規則に定められている通り、校長の職務の円滑な執行に資することを目的として機能している。 ・校長の運営方針を周知させたり、職員相互の事務連絡を図るよう有効に機能している。 ・各分掌や学年で練られた議題についてさらに全教職員による活発な協議がなされ、円滑な学校運営に有効に機能している。 ・事前に提案内容の確認・配布によりスムーズな会議の運営ができています。 ・議題の一覧表が活用され、提案忘れなどの漏れがなく、事前に各分掌・各担当ごとに提案事項の検討がなされていた。	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	・サービス管理は、管理職の指導・監督の下、適切に行われている。 ・勤務状況に係わる実地指導を受け、勤務時間等サービス管理に注意を払い適切に行っている。 ・休暇処理簿、旅行命令簿等の手続きをその都度処置するようにしている。 ・事例研修等で教職員の意識を高めるように努めている。	

《評価領域：組織運営等の状況》 ＜項目：学校と設置者の連携の状況＞		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3. 9 (3.8)
各学校での取組状況	・教育目標の設定は市教委の方針や児童生徒の実態等に基づいて行われ、職員に理解されて学校運営を行った。 ・教育活動などの学校運営は常に改善されている。 ・富良野市 ZERO 運動の理念をふまえ、教育目標及び年度の重点等を設定し、「教育推進プラン」	

	として分かりやすく示し学校運営を行った。	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	3. 9 (3.8)
各学校での取組状況	・児童生徒の状況、安全管理の情報は迅速に提供されきた。 ・学校の情報はサイボウズ等を利用し、常に設置者に報告され、密に連携が図られている。 ・近隣校、関係施設等との情報のやり取りも十分に行っている。 ・いじめの実態調査や防災教育調査等を通じて情報を共有している。 ・校内の情報はもとより、子どもネットワーク会議等で得た地域の情報についても迅速な「報連相」に努めた。	

<<評価領域：組織運営等の状況>> <項目：目標設定と自己評価の状況>		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3. 6 (3.5)
各学校での取組状況	・各学期ごとに児童生徒の状況等を鑑み、中期的な目標設定を行い、改善に努めていた。 ・学校評価の中間評価を実施し、具体的に設定された中・短期の目標を評価しながら進めることができた。 ・全国学力調査の結果分析から学校改善プランを作成し、具体策を示して教育活動を推進している。 ・8つのステージ制を取り、どの組織で何を取り組むべきかを明確にしている ・具体的に評価規準及び改善方策と学校改善プランを設定している。 ・学校の教育目標の具現化に向け、中期目標と短期目標を具体的に設定し、その実現に努め、成果も上がってきている。	
2	自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	・自己評価の結果を全職員で確認、検討し、学校運営の改善に努めていた。 ・2期に分けて評価し、改善を加えられるように工夫している。次年度の成果指標を示すなど目に見えた評価に努めている。 ・教職員による自己評価結果や生徒のアンケート結果を分析し、学校関係者評価委員会で検討、次年度の計画に反映させている。	
3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3. 7 (3.6)
各学校での取組状況	・児童生徒や保護者アンケートを実施し、成果と課題、要望等の意見を求めその結果を職員で共通理解した上で自己評価に生かしてきた。 ・学校経営・各部会・各分掌において保護者・児童生徒アンケートの分析結果を参考にし、評価を行っている。その中で、保護者・児童生徒アンケートと自己評価の相違点を分析し、学校運営の改善に反映させている	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：学校関係者評価の状況＞		
1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	・自己評価の結果を踏まえて、より客観的に評価をすることができ、課題を明確にすることができた。 ・学年末には学校関係者評価が実施され、学校の現状と課題について共通理解を深めるとともに、学校運営の改善へむけて協議を行っている。 ・学校関係者による評価により、自己評価結果の妥当性を確認している。	
2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	・評価結果を真摯に受け止め、新たな重点目標の設定等に生かすなど、学校運営の改善に生かした。 ・学校関係者評価の結果を活用し、「家庭学習の習慣」や「基本的な生活習慣」を定着させる取組を行うことができた。 ・地域の生徒の状況等をよく理解している学校関係者評価委員の方々の意見を真摯に受け止め、活用を図っている。 ・自己評価の適切さ、改善に向けた具体的な方策について学校関係者評価委員より評価・意見をいただき、学校運営の改善に反映させている	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：教育課程等の状況＞		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3. 5 (3.4)
各学校での取組状況	・教育目標を全教職員で共通理解し特色ある教育課程の編成・実施に努めた。 ・生徒の課題解決に向けた具体的な取組について協議されており、目標達成に向け教育課程の編成・実施においても教職員間で共有し努力している。 ・教育課程の改善を共通理解のもと行ってきたが、特別支援教育の教育課程の見直しなどについてさらに検討を要する。 ・地域や学校の実情に応じて、「生きる力」を育む特色ある教育課程を編成実施し、全職員で共通理解で進めている。 ・教育課程編成委員会を組織し、校内研修や授業研究、管理職の授業参観等多様な方法を活用し、教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	・教育課程や年間指導計画に基づいて適切に授業時数の管理を行った。 ・中3の授業時間数確保（進行管理）には教務部を中心に気をつけて実施している。 ・前年度の反省を活かして内容の修正を行った。授業時数も若干の余裕をもって実施している。実施可能な範囲で、少人数指導にも取り組んでいる。 ・特別支援員の活用や全教職員の指導により、基礎的基本的な内容の定着・意欲の向上を図る指導体制が整備されている。 ・毎月定期的に教務と打合せをし授業時数の確保と進捗についてチェックをし適切に教育課程の管	

	理を行っている。 - 各教科等の年間指導計画は適切に作成され、T Tや支援員、時間講師も各学級に配置されて指導体制が整備されている。 - 学習指導要領に示された時数を基準に年間指導計画を作成している。特に道徳や特別活動については、学年会議の中で十分な検討の上実施されている。 - 教務主任を中心に年間指導計画が作成され、T T指導や少人数習熟度別指導が効果的に取り入れられた。授業時数は週単位で集計・確認がなされていた
--	--

≪評価領域：組織運営等の状況≫ <項目：授業の状況>		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3. 6 (3.6)
各学校での取組状況	- わかる喜びやできた喜びが実感でき、自ら学ぶ意欲を高める学習が行われている。 - 小規模校の特性を生かし、丁寧な問題解決的な学習が進められた。また、小中の交流学习等を通して、児童生徒に興味・関心を持たせることもできた。 - 地域人材や地域の環境を有効に生かして教育活動を実施してきた。 - 体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れることで、子どもたちの関心・意欲が高まってきている。 - 児童生徒の学習意欲の向上や本物に触れることの大切さを実感させるために体験的な活動を積極的に取り入れた学習を展開している。また研修とタイアップし、自ら学ぶ力の向上に向けた授業を工夫している。	
評価委員の意見	体験的な学習や問題解決的な学習の有効性は、今日的な課題とあいまっていよいよ重要度が増していると考えられる。しかし、このような授業を行うには、資料の作成や準備など担任個々人の工夫や努力だけでは限界があると思われる。児童生徒のより自主的で自発的な学習を推進するためには、そのような授業をコーディネートする司書教諭とリファレンスやアドバイスをする学校司書の存在が、今後より欠かすことができないものになると思われる。	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3. 4 (3.5)
各学校での取組状況	- 道研から講師を招いて研修するなど、テレビやコンピュータ、i P a d、電子黒板を活用し、児童生徒の興味関心を高めたり、知識理解を深めたりした。 - 各教科において積極的に活用されているが、さらに効果的な活用を目指すには研修などの充実が必要である。 - それぞれの機器の有用性を生かし、理科や総合的な活動を中心に活用した。児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解の深まりに繋がっている。 - 電子黒板は全学年毎日活用している。平成25年度はパソコンが入替となり総合的な学習の時間をはじめ、他教科でも活用がしやすくなった。	

≪評価領域：組織運営等の状況≫ <項目：特別支援教育の状況>		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	・特別支援コーディネーターを中心に個別の指導計画や支援計画を作成し、ニーズに応じた教育を推進している。 ・生徒の状況把握に努め、望ましい支援のあり方を共有しながら計画通りに進んでいる。 ・特支学級担任が週1回の打合せを実施し、個別の支援に確認や情報交換指導体制の確認をきめ細やかに行っている。 ・コーディネーターを中心に児童の到達目標と必要な支援を具体化した支援計画表を作成し、保護者の共通理解を得、学校と家庭で一貫した指導を行い子どもたちの確かな変容をみることができている。	
評価委員の意見	・特別な支援を必要とすると認定された児童生徒についてはかなり支援が進んでいると思われる。しかし、困り感を抱きながら相談できずにいたり、発達障害などの知識がないために支援を受けられずにいる保護者、児童生徒もいるのが現実と思われる。同じような失敗を繰り返す特定の生徒のために、授業が中断されるといった事象もあり、ボーダーの児童生徒に対する職員対応等についても、研修や情報共有がさらに必要になってくるとと思われる。 【改善方策：各学校の特別支援コーディネーターを中心とした困り感を抱える児童生徒への適切な支援体制の強化】	

≪評価領域：組織運営等の状況≫ <項目：教職員の研修の状況>		
1	授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3. 7 (3.8)
各学校での取組状況	・校内研修の研究主題にもとづき全員が研究授業を行い、授業改善に努めた。また、公開研究会や研修講座等への積極的な参加を促してきた。 ・一人一授業実践を中心に据えて、研修係を中心に授業改善に向けて計画的に研修が行われている。 ・全教職員で授業研究に取り組み、教育実践研究発表会で外部の方からの評価や助言をもらい、研修を深めた。 ・一人一授業を行い、授業力向上を図る研修を中学校ともタイアップしながら進めている。 ・学級担任全員が授業研を行うことで意欲的に研修を進め、研修のやり方も工夫して若い先生方が活躍できる体制を確立している。	
評価委員の意見	・授業研究や改善等に熱心に取り組まれているが、さらに児童生徒が「考える」授業を推進していくためには、教職員側のファシリテーションがこれから必要となってくるとと思われる。そのような領域の研修についても取り組みを強化していくことが望ましいと考える。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：生徒指導＞		
1	生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3. 9 (3.8)
各学校での取組状況	・教育相談を定期的実施し、全教職員で共通理解し、児童生徒の小さな変化も見逃さないよう努めた。 ・特に、いじめ防止・根絶には力を入れている。 ・アンケートやQ-U検査を計画的に行い、それをもとに児童理解を深めている ・友達調べやいじめ調査をもとに定期的に教育相談を行って子どもたちの様子や変化を把握し、事例研を行って共通理解を図っている。 ・定期の相談に加え随時の教育相談の実施も進めている。さらには、相談員による教育相談との連携も進んできている。	
2	スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3. 4 (3.2)
各学校での取組状況	・スクールカウンセラーは配置されていないが、ことばの教室や特別支援教育にかかわる外部機関等との連携を図りながら指導支援に努めた。 ・スクールソーシャルワーカーには適宜来校していただき、生徒の教育相談に入ってもらっている。 ・上川管内および富良野市のスクールカウンセラーによる継続した相談活動に取組み、有効に外部人材を活用することができている。 ・スクールカウンセラーの活用はないが、地域の施設や市教委との連携を図って児童の心身のケアを行っている。 ・不登校やその傾向にある生徒に対してスクールカウンセラーを活用した。 ・スクールカウンセラーについては、生徒本人・関係保護者・担任の三者がそれぞれの立場で効果的に活用している。また、家庭に関わる問題についてはこども未来課との連絡を密にしている。	
評価委員の意見	・実例を各校に配布し、さらに定着を図ってはどうか。 【改善方策：スクールカウンセラーなどの活用は個別相談のみならず、校内研修においても積極的に活用をするよう、学校に事例を紹介する】	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：児童生徒の人格的発達の状況＞		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3. 8 (3.5)
各学校での取組状況	・よさを認め、ほめる指導を推進してきた。また、道徳の時間を中心として豊かな人間関係を構築するよう指導してきた。 ・Q-U検査を活用しソーシャルスキルの指導を通して、人間関係力の育成を図っている。 ・小規模校の学校の特性を生かし、各教科や道徳、特活のほか毎日の生活からも指導にあたっている。 ・道徳の授業を基軸に、全教育活動を通じて道徳教育を推進している。また豊かな人間関係を築く指導も行っている。	

	・相手を思いやることのできる指導を実施しているが、生育環境との関係もあり、実態として効果が上がり切れていない部分がある。 ・道徳の授業交流を行うなど、授業改善に向けた取組や生徒指導・教育相談等の取組を行った結果、いじめアンケートでいじめは絶対にしてはいけないと答えた児童が100%に達成した。今後も継続して指導の徹底を行う。 ・温かな人間関係を基盤とした教師の指導とともに、児童会の「いじめゼロスマイル宣言」の取組を進めている。平成26年度に向けての発展した取組を志向している。 ・ボランティア活動・読書活動・日常的教育活動・道徳の授業の充実に努めた。参観日で全学級とも道徳授業を公開し、懇談では保護者とともに考える時間も設定した。 ・協力し合う子を育てるために、学校教育全体で道徳教育推進、集会活動の工夫、縦割り班一斉清掃等に取り組んだりした。
評価委員 の意見	・前回の体罰調査アンケートからは体罰と認定するような事案は無かったが、アンケートの多くは当事者同士ではなく、その様子を目撃していた児童生徒からのものであった。当事者同士に体罰の意識は無くても、そのような状況を目撃した児童生徒の中にはそれを不快と感じ、担任との間に信頼関係を結べないと感じる可能性もあり、不登校や学級崩壊の遠因ともなりかねない。そのようなことを未然に防ぐものとして、一部の学校で「Q-U」テストなどを導入し、学級経営の参考にしているようであり、ぜひ活用し児童生徒の健全育成に役立てていただきたい。 【改善方策：道教委では子ども理解支援ツール「ほっと」の活用も呼び掛けている。「Q-Uテスト」・「ほっと」の活用により児童生徒を深く理解しながら、分析結果を教育現場に反映させる】

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：保健管理の状況＞		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3. 7 (3.6)
各学校での取組状況	・養護教諭による健康保持増進の指導を始め、担任が毎日健康観察を行ってきた。健康診断も養護教諭を中心に適切に実施された。 ・養護教諭が中心となり保健だよりなどを利用して疾病予防に取り組んでいる。 ・全職員で児童生徒の健康観察、保健だよりを生かして家庭との連携に取り組んでいる。 ・毎朝の健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともに、学級活動・保健の指導を工夫し児童の自己健康管理能力の向上を図っている。	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：安全管理＞		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3. 2 (3.3)
各学校での取組状況	・緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアルを用いた職員研修を行った。一層、教職員の危機管理意識を高める取組が重要である。 ・一斉送信メールシステムを導入し、緊急時の連絡体制を整備するとともに危機管理マニュアルを	

	作成し危機管理を行っている。 ・学校が市中心部から離れていて安全管理の危機意識が低調傾向であるが、改善に向け危機管理マニュアルを生徒指導部が見直し等取り組んでいる。 ・新しい課題（携帯の使用による危険等）についてのマニュアルの作成も検討する必要がある。 ・危機管理マニュアルの更新や一人一人がいつでも確認できる保管場所の設定を図っていく必要がある。 ・安全マップは作成しているが、より児童にも見やすいものに改善が必要。 ・危機管理マニュアルは見直しを図り、活用に努めている。 ・養護教諭と学級担任が連携して、自己健康管理能力向上のために性教育や保健指導を定期的に行っている。 ・危機管理マニュアルの整備・活用と防犯カメラの活用により、緊急事態に対応できる体制づくりと危機管理意識の向上に努めている。
評価委員 の意見	・前年度と比べてポイントが下がっているが、必要性を感じていないからのマイナスなのか、必要だが取組めていないのか？ 【改善方策：危機管理マニュアルの更新や一人一人がいつでも確認できる保管場所の設定がなされていない学校があるので、これらを解決するための指導を徹底する】

≪評価領域：指導・管理の状況≫ <項目：進路指導（キャリア教育）の状況>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3. 2 (3.2)
各学校での取組状況	・「名人に弟子入り」「職業講話」「職業体験」等を通して、様々な人材や機会から学び、勤労観や職業観を養ってきた。 ・全学年での農園活動による勤労体験や2年生での職場体験学習を実施し、計画的にキャリア教育の指導を進めている。 ・児童生徒の夢や憧れを育み、適切な勤労観や職業観を育む指導を行った。 ・マイノートを年間計画に組み込んで利用している。自己有用感の高い児童の育成に努力している。 ・キャリア教育の全体計画をもとに、全教育活動において、学習・勤労意欲を高める指導を行っている。 ・将来への夢をもち、よりよい生き方を目指すキャリア教育の充実を図っている。 ・学年の発達段階を意識して職業体験等、ZERO運動と関連させて「生き方」につながるキャリア教育を実施している。	
評価委員 の意見	・地域との協働により課題解決ができるものもあるのではないかと。 【改善方策：富良野市キャリア教育推進会議を開催し、学校と家庭・地域・事業所との連携によるキャリア教育の推進と充実を図る。】	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況＞		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3. 5 (3.3)
各学校での取組状況	・児童生徒や保護者からのアンケートを実施し、満足度や要望等の把握に努めPTA役員にも意見を聴くなどして即対応するように努めた。 ・通信や参観日の懇談のほか、家庭訪問や電話により連絡を密に取り合い、早急で適切な対応に努めている。 ・学校評価やアンケート、全体懇談会や学級懇談会、児童・保護者教育相談を通して意見・要望を把握し、全職員で検討し誠実に対応するよう努めている。	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3. 6 (3.5)
各学校での取組状況	・学校だよりは、保護者はもとより地域全戸にも配布した。学級だよりを毎週発行し、保護者が教育活動の理解を得る様に情報提供をしている。 ・まちこみメールによるお知らせなど、適切に情報の伝達・公開が行われている。	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	3. 2 (3.2)
各学校での取組状況	・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情報の提供に努めてきた。地域行事への参加を通して地域住民との交流に努めた。 ・HPは月に1回の割合で更新し、学校から広く情報を発信している。 ・「児童養護施設」を抱える特殊事情があり、公開には制約がある中で取り組んでいる。	
評価委員の意見	・学校に関する情報手段として、保護者のほとんどが「まちこみメール」を利用し、地域の方は回覧板の学校だよりなどで、自分の住む地域の学校の様子を知るのが現状である。ホームページを介して学校の情報を知ろうというのは、むしろ富良野市以外の人を対象と考える必要がある。富良野は移住・定住促進などを進めていることから、移住を考えている人が子どもの学校環境について知りたいといった場合にアクセスしやすいようにすることも必要と考える。麓郷小中学校のHPは、そのような形となっているが、学校単独ではなくまちづくりの一環として取り組むべき課題と考える。 ・簡単にホームページ作成ができるサービスが色々あるので活用しては。 ・学校支援ボランティアの活用で、教職員にホームページ作成のワークショップを開いては。 【改善策：ホームページは各学校の特色を出した構成で、各学校で作成している。市ホームページの移住者向けのサイトから学校のホームページへアクセスしやすいようにリンクをはる。】	

≪評価領域：家庭と地域との連携協力の状況≫ ＜項目：保護者・地域社会との連携の状況＞		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	・演劇指導、花壇整備、放課後子ども教室、職場体験での各事業所の活用など様々な方面で地域の人材を活用してきた。 ・各教科において、地域を活かした教育活動が展開されている。特に総合的な学習の時間では地域の教材を活かした教育活動が推進されている。 ・自然資源の活用や、地域縦割り班活動・放課後子ども教室・総合学習・行事に地域人材を積極的に活用している。 ・学校ビオトープを活用し身近な自然の活用をも志向している。 ・地域の教育資源を教育課程に位置づけ、各教科・道徳・総合的な活動の時間で有効に活用している。特に富良野塾などの専門家を招いての授業は、児童の活動の意欲化にも繋がり効果を上げている。併せて、教育資源の開発に向け情報の収集にも努めている。 ・これまでも協力していただいている人材と共に、メセナ事業の人材など各種教育資源を教育課程に位置づけ、学校として利活用している。また、新たな人材開発にも努めている。	

V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員 4 名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条第 2 項の規定及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

教育行政評価委員会では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価 59 事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質問・意見項目を基に意見交換を行いました。

また、学校第三者評価を実施するために、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立布礼別小学校及び市立麓郷小中学校の学校訪問を行い校長・教頭との意見交換、授業参観を行いました。さらに校長会会長との意見交換を行いました。

1) 第 1 回会議 7 月 22 日（火）開催

- 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
- 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
- 学校関係者評価集約結果の説明、質疑
- 学校第三者評価個別評価シートの集計結果説明、質疑
- 富良野市いじめZERO（ゼロ）推進条例について
- 学校訪問～市立布礼別小学校、市立麓郷小中学校

2) 第 2 回会議 8 月 19 日（火）開催

- 学校訪問における感想、意見交換
- 校長会長との意見交換
- 学校第三者評価のまとめについて
- 平成 25 年度富良野市教育行政評価報告書【事務事業点検・評価及び学校第三者評価】（案）に対する最終意見交換

2、教育行政評価委員会における意見

「教育委員会事務事業点検・評価」については、第5次富良野市総合計画前期基本計画第1章「基本目標1 時代を担う子どもたちをみんなで育むまちづくり」、第2章「基本目標2 やさしさと生きがいを実感できるまちづくり」の視点、並びに「平成25年度富良野市教育推進の重点」、「平成25年度富良野市社会教育推進計画」に基づいて平成25年度に実施した事務事業59事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し説明を行った。各委員と担当課との意見交換を経て、総体的に実践が進み期待どおりの効果が出ているとの意見が出されていました。

「学校第三者評価」は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

1) 教育委員会の活動状況

近年、地方分権の進展とともに教育委員会制度の改革が進められるなど、教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっています。

教育委員の学校訪問においては、子どもたちや教職員と実際にふれあい、生の声を聴くことは大切なことであり、各学校の特徴ある学校経営や抱えている課題等を把握、対応することが大切であります。

なお、教育委員会議は透明性を重視し公開で開催（一部非公開）しており、内容は市ホームページにおいて公表をしています。

2) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市学校教育中期計画」を学校教育の指針として教育活動計画等に適切に位置づけをし、毎年の検証・評価を経て教育活動を改善しており、平成25年度には「富良野市第2次学校教育中期計画」が策定されました。

長期休業日における学習サポート事業を全学校で実施し、学力向上に向けて教職員一丸となり取り組んでいます。今後も児童生徒の学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実させ、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

平成23年度より地域の方々や校内外の教職員に対し、積極的に全校で授業公

開を行い、地域に開かれた学校づくりを進めており、教員の授業研究・改善を図りながら、「分かる、楽しい」授業に重点を置き、教育方法等の改善に取り組んでいます。今後も地域の人材、教育資源や学校支援ボランティアなど地域の教育力を積極的に活用する必要があります。

また、各学校における食育の推進に向けて、栄養教諭と養護教諭の一層の連携を図り取組むとともに、家庭での食育啓発も推進する必要があります。

3) 社会教育について

社会教育及びスポーツの振興に関する推進は、個人の要求に応えることなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき推進されており、事業内容も「子ども未来づくりフォーラム」や「学社融合推進事業（学校支援ボランティア）」、「子どもスキー技術向上支援事業」、「子どもの読書推進事業」を始めとして高く評価するもので、今後とも市民ニーズに適切に対応し、生涯学習の観点に立った事業及び施設運営を図る必要があります。

なお、社会教育関係団体の一部で活動の低下が見受けられるので、社会教育関係団体の育成について検討する必要があります。

4) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価に取り組んだ当初は、評価委員から数多くの指摘がありましたが、教育委員会並びに各学校において迅速な対応が行われたことにより、指摘が年々減ってきていることは、より良い学校運営が図られてきている証と思われます。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として活用する必要があります。

5) 校長会会長との意見交換

近年、教員の勤務時間が長時間にわたり、教員の負担増が議論されているが、学力向上を含め全てを学校にお願いするのではなく、学校・家庭でそれぞれ役

割分担を決めて行うことが必要である。

また、富良野市教育の重点方針における基本理念及び重点方針や富良野市学校教育中期計画を受け、学校経営と学校教育においてその実現への方向性が示されていることは、大事なことである。特に、市 PTA 連合会と市教育委員会が連携して取り組んでいる学力向上や家族の約束 7 カ条の推進、ネット・ケータイ被害の学習会、いじめ防止を含めた児童生徒指導充実の取り組みは評価をするものである。

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2) 学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

（構成）

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度までとする。

（運営）

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	瀬 川 謙二郎	ふらの演劇工房理事長
委員	品 田 靖 恵	図書館ボランティア
委員	金 倉 康 裕	前市PTA連合会長

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

改正 平成 19 年 6 月 27 日法律 98 号(施行 平成 20 年 4 月 1 日)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料：4**平成25年度 教育行政執行方針**

平成25年第1回富良野市議会定例会の開会にあたり、教育行政に関する執行方針を申し上げます。

市議会をはじめ市民の皆様のご理解とご協力を頂き、関係部局・機関団体との連携を深め、地域に根ざした実効性のある教育施策を進めてまいりたいと存じます。

教育は人格の完成をめざして、個性を尊重しつつ個人の能力を伸長し、自立的に生きる基礎を培うことを目的として行われるものであります。

次代を担う子どもたちにとって、自ら学び自ら考える力の育成や学力の基礎・基本の確実な定着と応用力・活用力の向上を図るとともに、他人を思いやる心、感動する心、命を大切に作る心、感謝の心、正義感や公正を重んずる心、さらには自己実現をめざした「生きる力」などを育むことが大切であります。

今日、少子高齢社会の到来や核家族化、国際化、高度情報化が進展する中で、地球環境問題、エネルギー問題など社会情勢が急激に変化し続けており、教育を取り巻く環境にも大きな影響を与えております。

こうした中、子どもたちの豊かな人間性を培うために、学ぶ意欲や規範意識、道徳心、そして体力の向上など喫緊に対応することが重要であり、新しい時代を切り拓き積極果敢に築き上げていく気概を持った人材育成が強く求められております。

そのためには、『第5次富良野市総合計画』を基本とし、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた児童生徒の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす学校教育の充実に努めてまいります。

また、学校と地域との連携・協力体制をより一層構築し、地域の教育力を高めながら地域全体で学校を支え子どもたちを健やかに育むことをめざすために、学社融合推進事業や学校支援ボランティア活動などを中心に積極的な学校支援の取り組みを推進してまいります。

さらに、市民一人ひとりが心身ともに健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるように、生涯にわたってあらゆる機会や場所において学習することができ、その学んだ成果を適切に生かすことのできる環境づくりが必要です。そうした生涯学習社会の構築をめざし、活力と潤いのある地域社会を創造するための社会教育の推進及び芸術・文化、スポーツの充実並びに地

域の活性化に重要な役割を果たす公民館・図書館・博物館活動などを推進してまいります。

教育行政評価と学校評価につきましても、教育行政及び学校教育の現状と課題を検証・評価し、今後の改善と展望を提示することを目的として実施してまいります。

学校教育について

学校教育につきましては、『富良野市学校教育中期計画（平成20年度～平成24年度）』の成果と課題を基に、今後の富良野市の学校教育の在り方を示す『富良野市第2次学校教育中期計画（平成25年度～平成29年度）』を策定いたしました。計画では、「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に、子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」をオール富良野で育んでいくことを掲げた『富良野市ZERO運動』を推進し、各学校や教職員等が教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基軸とした教育実践の輪を広げてまいります。

学力の向上につきましては、「全国学力・学習状況調査」の結果を詳細に把握・分析した上で、学習指導方法の工夫改善や学習環境づくりの推進を図り、行政・学校・家庭・地域社会の連携による確かな学力向上に努めてまいります。

体力の向上につきましては、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を把握、分析し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立ててまいります。

また、本年、富良野市で開催されます「北海道学校体育研究大会富良野大会」を支援してまいります。

幼児教育につきましては、幼稚園・保育所から小学校への円滑な就学支援を図ることを目的に、～育ちと学びの応援ファイル～「すくらむ ふらの」を活用し、児童の心の問題や生活習慣などについて一貫した教育の実践に努めながら、子育て支援や幼児教育の充実に向け私立幼稚園就園奨励補助などにより就園機会の拡充と保護者負担の軽減を図ってまいります。

心の教育につきましては、引き続き子どもと親の相談員や学校教育アドバイザー、スクールカウンセラーを配置し、心の問題をケアできる体制づくりを図り、きめ細やかな対応に努めてまいります。

また、いじめや児童虐待などの未然防止と早期発見・早期対応に努め、その根絶に向けて学校・家庭・地域社会などと連携し取り組んでまいります。

さらに、富良野市少年育成協議会におきましても、少年の健全な育成を目的

として、学校、PTA、関係機関・団体が連携して情報を共有し、適切な対応に努めてまいります。

危機管理につきましては、富良野警察署及び富良野消防署並びに子どもたちの安全を守る団体・組織などとの連携を図りながら、学校内外での安全な生活環境づくりに努めるとともに、学校における危機管理体制の徹底を図ってまいります。

特別支援教育につきましては、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校への引き継ぎや相談体制の充実及び保健・医療・福祉との連携を図り、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し、支援体制の充実・強化に努めてまいります。

道徳教育につきましては、富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を推進するとともに、児童生徒や学校・地域の実態を踏まえた『富良野市ZERO運動』を中核に据え、道徳的実践を高める教育を進めてまいります。

環境教育につきましては、富良野自然塾や太陽光発電、リサイクルなど、富良野市の自然環境や施設を活用し、学校や地域の特色を生かした教育の充実に努めてまいります。

キャリア教育につきましては、望ましい職業観や勤労観を身に付け、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する力を身に付けることができるよう、各学校における年間計画、指導体制などの充実を図るとともに、勤労体験学習や職業体験学習については、今後も学校と受入事業所などとの連携を推進してまいります。

食育につきましては、「子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら実践するとともに、学校、家庭、地域社会と連携した「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動を展開してまいります。

情報教育につきましては、インターネット被害から子どもたちを守り、安全・安心にインターネットなどを利用するための情報モラル教育を、関係機関と連携しながら実施してまいります。

また、携帯情報端末や電子黒板などのICT（情報通信技術）を活用した学習方法の工夫、充実に努めてまいります。

国際理解教育につきましては、外国語指導助手4名を小中学校に引き続き派遣し、英語力の向上に努めるとともに、「英語が話せるふらのっ子」をめざした「イングリッシュキャンプ」などの実施により外国語活動の充実を図ってまい

ります。

学校図書につきましては、学習に必要な図書を計画的に整備するとともに、市立図書館との連携や学校支援ボランティアの協力による「読み聞かせ会」など、児童生徒の読書活動を推進してまいります。

健康教育につきましては、関係機関と連携し計画的な性教育、薬物乱用防止教育を推進するとともに、校内における健康相談体制の充実を図ってまいります。

また、児童生徒の歯の健康づくりに向けて、小中学校においてフッ化物洗口に取り組んでまいります。

高等学校教育につきましては、中学校と高等学校の相互連携により授業参観交流と授業の指導工夫改善を図り、「中高学力向上プロジェクト」の設置による学力の向上に努めてまいります。

また、本年度から道立富良野高等学校が普通科単位制に移行することから、北海道教育委員会と連携して、本市の特徴を生かした魅力ある高校づくりに取り組んでまいります。

学校教育施設の整備につきましては、本年度「富良野東小学校校舎・屋内運動場改築事業」及び「麓郷小学校屋内運動場耐力度調査」、「麓郷小中学校屋内運動場実施設計並びに改築事業」、「樹海小学校耐震診断調査」を実施し、児童生徒の教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設の整備を進めてまいります。

また、少子化による児童生徒数の減少により、「富良野市立小中学校適正規模及び適正配置に関する指針」に基づき、本年度より麓郷小学校・麓郷中学校を併置化してまいります。

社会教育について

社会教育につきましては、市民の多様化、高度化する学習ニーズに対応し、豊かな心身を育み充実した生きがいのある人生を送るために、『第6次社会教育中期計画』に基づき、自主的な学習活動に取り組むことができ、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会をめざしてまいります。

家庭教育につきましては、人間形成の出発点であります家庭の教育力を高めるとともに、子どもの発達段階に合わせた「家庭教育ハンドブック」を引き続き作成、活用してまいります。

また、インターネットなどによる被害から子どもたちを守るため、トラブル

防止に関する小冊子の利用を推進するとともに、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底などの啓発活動を継続してまいります。

少年教育につきましては、少年団体の活動支援に努めるとともに、「放課後子ども教室」を新たに布部地区においても開設いたします。

また、学校支援ボランティアや地域の教育力を生かしながら「学社融合推進事業」を継続実施し、子どもたちを健やかに育む環境をつくり、生きる力や豊かな人間性を育成してまいります。

さらに、日常生活の中で体験し考えたことや特色ある学習活動などを発表する「少年の主張大会」や「子ども未来づくりフォーラム」を引き続き開催するとともに、少年非行などの未然防止についても、関係機関と連携しながら取り組み、健全育成を推進してまいります。

青年教育につきましては、青年同士の出会いと交流の場としての「青年塾」を引き続き開設し、学習機会の提供、社会参加や地域活動への参画を通じた自主的な実践活動を支援してまいります。

成人・高齢者教育につきましては、市民のニーズに即した学習機会の充実をはじめ、市民の学習活動に対する支援や「ことぶき大学」を引き続き開設し、知識・経験を生かした地域活動やボランティア活動などの社会参加活動を推進してまいります。

また、コミュニケーション能力の向上を図るための「コミュニケーション教育推進事業」を、新たに実施してまいります。

さらに、本年、富良野市で開催されます「第35回全国公民館研究集会 in ふらの北海道」を支援してまいります。

芸術文化の振興につきましては、鑑賞機会の充実や情報提供、市民総合文化祭などを通じた自主的な芸術文化活動を支援するとともに、「ふらの演劇祭」や「舞台塾ふらの事業」などを継続開催し、富良野演劇工場を核とした演劇文化の育成と情報発信に努めてまいります。

スポーツの推進につきましては、自然や地域の特性を生かした生涯スポーツの推進を図り、身近にスポーツに親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

また、競技スポーツと人材育成につきましては、NPO法人ふらの体育協会を中心として各種スポーツの競技力の向上をめざし、指導者養成やアスリートの育成・派遣・強化に努めてまいります。

さらに、10年目になります「第26回全国高等学校選抜スキー大会」や「少年野球国際交流事業」、「子どもスキー技術向上支援事業」を引き続き実施するとともに、7月25日に富良野市で開催されます「開庁110年記念夏期巡回ラジオ体

操」を支援してまいります。

文化財の保護につきましては、市民共有の財産として保護し、啓蒙・普及活動を推進するとともに、市指定文化財の富良野獅子舞をはじめ山部獅子舞、富良野弥栄太鼓などの郷土芸能の育成に努めてまいります。

また、2ヵ年にわたり実施した歴史的建造物の詳細調査を継続し、その成果を報告書として刊行するとともに、郷土の歴史・産業・文化を知る基礎資料として活用してまいります。

生涯学習センターにつきましては、体験交流を基調に市民の高度化・多様化するニーズに対応する学習機会の充実を図ってまいります。

図書館につきましては、利用者の多様なニーズに適応した図書館資料の充実を図り、市民に役立つ幅広い情報収集・提供に努めてまいります。

子どもの読書推進につきましては、乳幼児期からの読書活動の動機づけに効果がある「ブックスタート」を継続実施するとともに、学校における読書活動の支援や読書ボランティアの協力と連携による読書環境の一層の向上を図ってまいります。

また、利用が増えている高齢者などへのサービスとして、録音図書や大活字本などの充実を図ってまいります。

さらに、市民参加による親しまれる図書館づくりをめざして、利用サークルや図書館ボランティアなどと連携した企画展・作品展・講演会など多彩な事業の実施による交流の場の創出を図ってまいります。

以上、平成25年度の教育行政執行方針について申し上げましたが、執行にあたりましては、より一層開かれた教育行政をめざして、事務の管理及び執行状況の点検・評価に基づき、効果的に推進してまいりますので、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

資料：5

平成25年度 富良野市教育委員会 重点事項
～すべては子どもたちのために～平成25年4月1日
富良野市教育委員会

＜基本理念＞

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

(富良野市第2次学校教育中期計画)

＜重点方針＞

子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」をオール富良野で育んでいくことを掲げ、教育のコンセプト「連続、継続、接続」を基軸に『富良野市ZERO運動』を推進し、各学校や教職員等が教育の原点を見つめ直し、幼・小・中・高との連携を強化し教育実践の輪を広げる。

また、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子ども達の着実な育成を基本に据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

＜重点課題＞

- 1 確かな学力向上をめざし、これまで以上に授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた望ましい生活習慣の定着を図る。
- 2 教育行政評価委員会（事務事業点検・評価、学校第三者評価）を設置し、教育行政及び学校教育の現状と課題の検証・評価をもとに改善を図る。併せて、体罰・いじめの調査結果においても、教育行政評価委員の知見を活用し、検証等を行い公正に判定する。
- 3 地域全体で学校を支えるため、地域の教育力や学校支援ボランティアの活用を図る。
- 4 食は健康の源、食育は最善の予防医学との認識のもと、食育ガイドラインを基本として食育を推進する。
- 5 東小学校校舎・屋内運動場改築、麓郷小中学校屋内運動場改築、樹海小学校耐震診断調査を進め、児童生徒の教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設整備を図る。
- 6 国際都市富良野市の人づくりを推進するために「英語が話せるふらのっ子」をめざす。

＜重点項目＞

1 特別支援教育について＜知育＞

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために、富良野小学校に4名、扇山小学校、東小学校に各3名、山部小学校、鳥沼小学校、富良野東中学校、富良野西中学校にそれぞれ1名、計14名の特別支援教育支援員を配置し、校内における支援の充実を図る。
- ・支援の必要な児童生徒のために、社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院との連携による療育支援事業を実施するとともに、子ども理解からはじめる学習指導の徹底を図る。（平成23年9月27日付け富教第558号通知）
- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ふらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

2 外国語活動について＜知育＞

- ・外国語指導助手（ALT）4名を小学校へ2名、中学校へ2名派遣するとともに、富良野市外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による外国語活動の推進体制を整備する。
- ・外国語活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進するとともに、「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」等の実施により外国語活動の充実を図る。

3 全国学力・学習状況調査等について＜知育＞

- ・調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・地域の方々や校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。（年2回程度の地域授業公開）
- ・指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員外部人材活用事業による時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・地域連携研修計画において、小規模6校が各教科における学習指導法の改善点を明確にし、言語活動を充実させ学習意欲向上に努める。

4 防災教育・危機管理について＜健康＞

- ・自然災害、事故、事件等の危機管理の徹底を図るとともに、富良野警察署や富良野消防署等と連携し、引き続き、各学校及び保護者を中心として、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・また、富良野市少年育成協議会を中核に据え、各学校での実質的で組織的な危機管理体制の確立や子どもの虐待問題の解決等に取り組んでいくとともに、早期対応と関係機関同士の情報の共有を定期的を図る。
- ・虐待問題に対しては、こども未来課や警察署等関係機関との連携強化を図り対応する。

5 いじめ・不登校対策について＜情意＞

- ・未然防止、早期発見、早期対応を基本とする。
- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員（社会福祉士有資格者）及び子どもと親の相談員（臨床心理士有資格者）、スクールカウンセラー（臨床心理士有資格者）を配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。

※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について

- 1) 富良野東中学校、富良野西中学校、扇山小学校 …… 松田剛先生を配置
- 2) 富良野小学校、東小学校 …… 石黒三知子先生を配置
- 3) 必要に応じて市内全校にて対応可能

6 道徳教育について＜情意＞

- ・児童生徒や学校、地域の実態を踏まえた「富良野ZERO運動」を中核に捉え、道徳的实践力と道徳的实践を高める教育を推進する。
- ・富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を推進する。

7 演劇から学ぶ心の教育について＜情意＞

- ・子どものための優れた舞台芸術体験事業の活用により、引き続き演劇活動や演劇鑑賞を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の育成と個性の創出などを図る。

8 環境教育について＜知育＞

- ・「富良野自然塾」の活用など、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

9 食育について＜健康＞

- ・「子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、子どもの発達段階に応じた食育を栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら実践する。

- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動や基本的生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動を学校教育と社会教育が連携し推進する。

10 キャリア教育について＜情意＞

- ・富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学校と家庭・地域・事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。
- ・各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。

1 1 市中高等学校経営連絡協議会について＜知育＞

- ・進路指導と生徒指導を中心に進めている市中高等学校経営連絡協議会において、引き続き学力向上に向けたプロジェクトを推進し、魅力ある学校づくり等を目指す。
- ・市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流と授業の指導の工夫改善と連携強化を図るとともに、富良野高校普通科単位制への支援を行う。

1 2 情報教育について＜情意＞

- ・各学校のパソコン、テレビ、電子黒板、タブレット端末などを活用した学習方法の工夫、充実に努める。
- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携を強化しながら、情報モラル教育の徹底を図る。
- ・保護者へのアプローチ（参観日、出前講座、セミナー等）により、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

1 3 子ども未来づくりフォーラムについて＜知育＞

- ・子どもたちの表現の場として、表現力、思考力、コミュニケーション能力を高めるために、「学習実践発表」「少年の主張」「会場参加型交流会」の3部構成とし、より一層の充実を図る。

1 4 放課後子ども教室の開設について＜情意＞

- ・放課後における子どもたちの安全・安心な居場所を提供する「放課後子ども教室」を、本年度、新たに布部地区において開設する。
- ・25年度開設場所～山部小学校、樹海小学校、布礼別小学校、布部小学校

1 5 アスリートの育成・強化について＜健康＞

- ・少年期からの競技スポーツの夢への挑戦と大きな舞台での試合経験を積み重ねるために「アスリート育成派遣費補助金」の継続及び充実を図る。
- ・スキー技術向上支援事業を継続実施し、子どもたちの基礎体力の強化に努める。

16 家庭教育について＜情意＞

- ・人間形成の出発点である家庭の教育力を高めるために、子どもの発達段階に合わせた「家庭教育ハンドブック」を作成、活用する。
- ・幼児期からの読書活動の動機づけに効果がある「ブックスタート事業」を継続実施する。

17 学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）について

＜知育・情意・健康＞

- ・心豊かで健やかに育む環境づくりに地域の教育力を活かし、地域全体で学校教育を支援する学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）の更なる推進を図る。（平成 23 年度「文部科学大臣表彰」受賞）

18 学校における読書の推進について＜知育＞

- ・市立図書館、各学校、学校支援読み聞かせボランティア等と連携した取り組みを推進する。（平成 22 年度「文部科学大臣表彰」受賞）
- ・小学校新 1 年生の図書館利用登録の推進
- ・学校図書館のデータベース化
- ・ブックトラック事業、ブックフェスティバル事業の推進

19 コミュニケーション教育推進事業について＜情意＞

- ・コミュニケーション能力向上における学習機会の提供を行い、「他者理解」「話す・聞くの基本」「信頼関係の構築」など、コミュニケーション能力の基礎を学ぶ機会とする。
- ・コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進するため、演劇的手法を活用した教職員研修の充実を図る。

20 富良野市歴史的建造物調査事業について＜知育＞

- ・市内の明治末期から昭和 30 年代の歴史的建造物の中から、文化財として評価の高い物件についての調査報告書を、道内研究者並びに北海道建築士会富良野支部の協力を得て刊行する。
- ・対象物件：渡部医院、やまどり（旧河村合名酒造酒蔵）、島田邸、旧山本澱粉工場、古民家など

以上、平成 25 年度の基本理念、重点方針、重点課題、重点項目を記載しましたが、これまで以上に組織（市教委、学校）が一枚岩となり、保護者への情報発信、説明責任などを行いながら、子どもたちの未来を力強く切り拓くための実践教育活動の推進に向け取り組んでいきます。

「教育は未来への遺産づくり」